

土地分類基本調査

赤名・上布野

5万分の1

国 土 調 査

広 島 県

1 9 9 5

はじめに

限りある国土を有効に利用するためには、その土地の属性を科学的方法で調査し、統一的に把握することが何より必要です。

こうした観点から、県は、昭和51年度から国土調査法に基づく土地分類基本調査を実施していますが、平成5年度は5万分の1地図「赤名・上布野」図幅の地域を調査しました。これがその成果です。

この調査の実施に当たって御協力をいただいた関係者各位に対し深い謝意を表するとともに、この報告書が、今後、土地利用の企画立案に当たって広く活用されることを願います。

平成7年3月

広島県県民生活部長 陣内 秀人

〈参考・平成5年度までに調査した図幅〉

昭和51年度	「海田市」
昭和52年度	「庄原」, 「大竹」
昭和53年度	「広島」, 「津田」
昭和54年度	「乃美」, 「巖島」
昭和55年度	「府中」
昭和56年度	「尾道・土生」
昭和57年度	「可部」
昭和58年度	「竹原」
昭和59年度	「呉」
昭和60年度	「福山・魚島」
昭和61年度	「加計」
昭和62年度	「井原」
昭和63年度	「三津・今治西部」
平成元年度	「木都賀・三段峡」
平成2年度	「上下」
平成3年度	「大朝」
平成4年度	「八重」
平成5年度	「赤名・上布野」

目 次

まえがき 総 論

I 位置及び行政区画	1
1 位 置	1
2 行政区画	1
3 面 積	2
II 地域の特性	3
1 地 勢	3
2 気 候	3
3 土地利用の概要	4
4 人口・世帯数	6
5 交 通	7
III 主要産業の概要	8
1 農 業	9
2 林 業	11
3 商 工 業	12
IV 開発の現況と方向	13

各 論

I 地形分類図	15
II 表層地質図	26
III 土 壌 図	35
IV 水系図及び谷密度図	55
V 傾斜区分図	57
VI 土地利用現況図	58

まえがき

- 1 この調査は、広島県が事業主体であり、広島県土地分類基本調査研究会（広島大学）の協力を得て行ったものである。
- 2 この調査は、自然条件のうち土地の基本的性格を形成している地形、表層地質、土壌の3要素を基礎とし、これに傾斜区分、水系・谷密度、土地利用現況を加味し、その結果を相互に有機的に組み合わせることによって科学的な土地利用の可能性を分類するものである。
- 3 この調査結果は、国土調査法施行令第2条第1項第4の3号の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿である。
- 4 この調査の結果、成果の作成機関及び担当者は、次のとおりである。

調査結果の作成機関及び担当者

指 導	国土庁土地局国土調査課				
総 括	広島県県民生活部土地対策課	課 長	小 滝	晃	
		課長補佐	橋 本	涉	
		国土調査係長	藤 川	和 博	
		主 任	松 岡	弘 道	
地形調査	広島大学文学部	教 授	藤 原	健 藏	
	東京都立大学理学部	教 授	堀	信 行	
	山口大学教育学部	助 教授	前 杢	英 明	
表層地質調査	広島県土地分類基本調査研究会	会 員	柴 田	喜太郎	
土壌調査	広島県立農業技術センター	環境研究部長	半 川	義 行	
		主任研究員	中 藪	正 之	
		主任研究員	宮 地	勝 正	
		主任研究員	松 浦	謙 吉	
		主任研究員	谷 本	俊 明	
	広島県立林業試験場	育種開発部長	水 野	邦 彦	
		研 究 員	升 原	一 介	

水系・谷
水密度調査

広島大学文学部
東京都立大学理学部
東京都立大学理学部理学研究科

傾斜区分
調査

広島大学文学部
東京都立大学理学部
山口大学教育学部
広島大学大学院文学研究科

土地利用
現況調査

広島県立農業技術センター

広島県林務部林政課

研究員
教授
教授

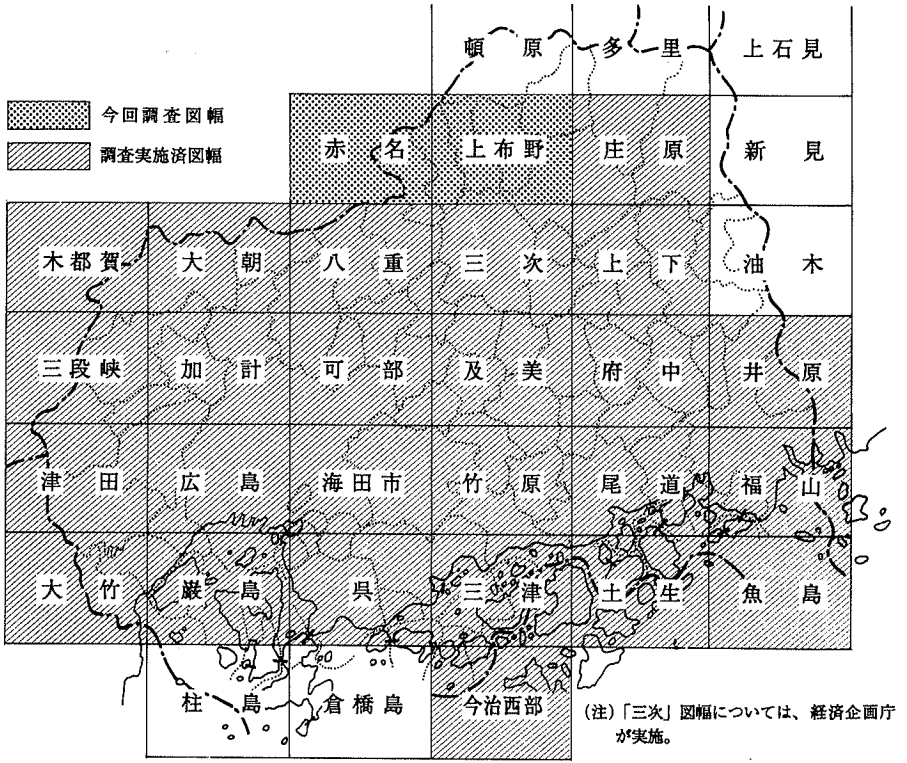
教授
教授
助教授

環境研究部長
主任研究員
主任研究員
主任研究員
主任研究員

主査(兼)
森林計画係長
技師

涌嶋 智
藤原 健藏
堀 信行
氏原 真理子
藤原 健藏
堀 信行
前 杢 英明
細 矢 卓志
半 川 義行
中 藪 正之
宮 地 勝正
松 浦 謙吉
谷 本 俊明
上 田 猛雄
安 藤 美紀

広島県土地分類基本調査実施状況



総

論

I 位置及び行政区画

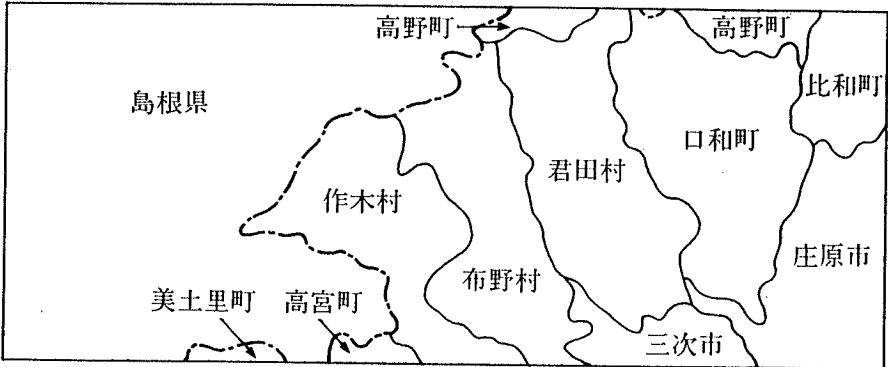
1 位置

この図幅は、広島県の北西部に位置し、経緯度は東経 $132^{\circ} 30'$ ～ $133^{\circ} 0'$ 、北緯 $34^{\circ} 50'$ ～ $35^{\circ} 0'$ で、図幅内の広島県域面積は 501km^2 である。

2 行政区画

この図幅内には、三次市、庄原市、美土里町、高宮町、君田村、布野村、作木村、口和町、高野町及び比和町の10市町村が含まれている。

図-1 行政区画図



3 面 積

この図幅内の市町村面積は、三次市19.6km²、庄原市62.6km²、美土里町1.9km²、高宮町5.5km²、君田村85.7km²、布野村80.6km²、作木村73.8km²、口和町109.7km²、高野町16.9km²、比和町44.7km²である。

表一 市町村別面積

(単位：km²，%)

市 町 村	図 幅 内 面 積		市町村面積 (B)	$\left(\frac{A}{B}\right) \times 100$
	実数(A)	構 成 比		
三 次 市	19.6	3.9	251.55	7.8
庄 原 市	62.6	12.5	243.55	25.7
美 土 里 町	1.9	0.4	123.25	1.5
高 宮 町	5.5	1.1	124.46	4.4
君 田 村	85.7	17.1	85.87	99.8
布 野 村	80.6	16.1	82.71	97.4
作 木 村	73.8	14.7	92.25	80.0
口 和 町	109.7	21.9	110.14	99.6
高 野 町	16.9	3.4	159.17	10.6
比 和 町	44.7	8.9	131.30	34.0
合 計	501.0	100.0	1,394.25	35.9

資料：建設省「平成5年全国都道府県市区町村別面積調」(平成5年10月1日)

(注)：図幅内面積は、5万分の1地形図をプランメーターにより計測したものである。

Ⅱ 地域の特徴

1 地 勢

この図幅は、県北部に位置し、比婆山山系の南西部に位置している。

図幅北西部の島根県境付近や図幅中北部では、山地高度は、800m～900mとなっているのに対し、図幅中部から南部では、400m～700mとなっており、低起伏の山地が多くなっている。

また、山麓・丘陵は、高野町の火室山周辺、布野村横谷、口和町永田、庄原市本郷町などに分布しており、明瞭な傾斜変換線をもって山地に接している。

なお、この図幅の河川は、江の川水系である。

2 気 候

広島県の気候は、中国山地気候区、山陽気候区、瀬戸内気候区、中国西部気候区の四気候区に分類される。

この地域は、中国山地の南側にあつて中国山地気候区に属し、年平均気温は11° C前後、年降水量は1,900mm～2,300mm程度となっている。

夏は沿岸部に比べて涼しく、冬は日本海側からの季節風の影響により積雪が多い。このため、この図幅内の大半が豪雪地帯対策特別措置法による豪雪地帯指定地域となっている。

表一2 月別気象状況

(単位：°C, mm)

平成5年 月	区 分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平成5年 平均
		最高気温	高野	4.1	5.1	7.5	14.6	20.3	22.6	24.3	24.9	21.9	16.4	
	三次	7.4	8.9	11.0	17.9	23.0	25.4	27.0	27.6	24.9	19.1	14.8	9.1	18.0
最低気温	高野	-2.2	-4.2	-2.9	1.5	7.1	13.7	17.8	17.3	12.9	4.9	2.6	-1.9	5.6
	三次	0.1	-1.1	-0.1	4.0	10.0	16.3	19.4	19.8	16.1	8.5	5.6	0.7	8.3
平均気温	高野	0.7	0.8	2.0	8.2	13.7	18.1	20.6	20.8	17.1	10.3	7.8	1.9	10.2
	三次	2.9	3.5	4.9	10.8	16.1	20.5	22.9	23.2	19.8	12.9	9.6	4.2	12.6
降水量	高野	102	148	115	71	141	275	432	420	263	81	164	138	2,350
	三次	57	65	73	59	134	233	412	373	255	69	129	59	1,918

資料：広島地方気象台「広島県気象年報」

3 土地利用の概要

土地利用の概要を地目別にみると、表一3のとおり、行政区域全面積の80.7%が森林で、農地 8.0%、宅地1.1%、雑種地 0.7%、その他 9.5%となっている。

図幅内市町村の土地利用の状況をみると、地形上の特性から森林の割合が80.7%と県平均の73.0%に比べ高い。また、農地の利用は、県平均に比べやや低くなっていると同時に、宅地の利用は県平均に比べ著しく低くなっている。

表－3 土地利用の概要

(単位：ha, %)

市町村	総面積	宅地	農地			森林	雑種地	その他
			合計	田	畑			
三次市	25,155 (100.0)	705 (2.8)	2,960 (11.8)	2,560 (10.2)	400 (1.6)	16,819 (66.9)	589 (2.3)	4,082 (16.2)
庄原市	24,355 (100.0)	460 (1.9)	2,760 (11.3)	2,350 (9.6)	409 (1.7)	17,905 (73.5)	202 (0.8)	3,028 (12.5)
美土里町	12,325 (100.0)	77 (0.6)	864 (7.0)	764 (6.2)	100 (0.8)	10,676 (86.6)	15 (0.1)	693 (5.7)
高宮町	12,446 (100.0)	97 (0.8)	1,200 (9.6)	978 (7.9)	219 (1.7)	9,832 (79.0)	128 (1.0)	1,189 (9.6)
君田村	8,587 (100.0)	34 (0.4)	402 (4.7)	360 (4.2)	42 (0.5)	7,484 (87.2)	23 (0.2)	644 (7.5)
布野村	8,271 (100.0)	44 (0.4)	360 (4.4)	303 (3.7)	57 (0.7)	7,445 (90.0)	12 (0.1)	410 (5.0)
作木村	9,225 (100.0)	41 (0.4)	393 (4.3)	299 (3.3)	94 (1.0)	7,675 (83.2)	16 (0.2)	1,100 (11.9)
口和町	11,014 (100.0)	54 (0.5)	777 (7.0)	686 (6.2)	91 (0.8)	9,533 (86.6)	3 (0.0)	647 (5.9)
高野町	15,917 (100.0)	40 (0.3)	946 (5.9)	678 (4.2)	268 (1.7)	14,004 (88.0)	3 (0.0)	924 (5.8)
比和町	13,130 (100.0)	38 (0.2)	594 (4.5)	513 (3.9)	81 (0.6)	11,905 (90.7)	7 (0.1)	586 (4.5)
合計	140,425 (100.0)	1,590 (1.1)	11,256 (8.0)	9,491 (6.8)	1,761 (1.2)	113,278 (80.7)	998 (0.7)	13,303 (9.5)
県計	847,421 (100.0)	31,377 (3.7)	72,600 (8.6)	51,700 (6.1)	20,900 (2.5)	618,374 (73.0)	10,169 (1.2)	114,901 (13.5)

資料：1 総面積…建設省国土地理院「平成5年全国都道府県市区町村別面積調」(平成5年10月1日現在)

2 宅地…自治省「平成6年固定資産の価格等の概要調査報告書」
(平成6年1月1日現在)

3 農地…中国四国農政局広島統計情報事務所
「広島農林水産統計年報」(平成4年8月1日)

4 森林…「広島県林務部行政資料」(平成6年3月)

5 雑種地…2の宅地と同じ

6 その他…総面積から、宅地、農地、森林、雑種地を除いたもの

(注)：()内は構成比

4 人口・世帯数

この図幅内の10市町村の人口は、表-4のとおり、平成2年10月1日現在85,316人で、昭和60年に比べ752人、0.9%減少している。

作木村の△8.7%をはじめ、高野町、高宮町、美土里町、口和町、布野村、比和町、君田村、庄原市は、人口が減少しているのに対し、三次市はやや増加している。

表-4 市町村別人口・世帯数

(単位：世帯，人，%)

市町村	昭和60年 (A)		平成2年 (B)		増減率 ($\frac{B}{A}-1$)×100	
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
三次市	12,122	38,968	12,847	39,465	6.0	1.3
庄原市	6,775	22,807	7,006	22,677	3.4	△0.6
美土里町	1,177	3,996	1,166	3,811	△0.9	△4.6
高宮町	1,609	5,078	1,588	4,825	△1.3	△5.0
君田村	575	2,034	565	2,003	△1.7	△1.5
布野村	633	2,301	607	2,217	△4.1	△3.7
作木村	812	2,439	765	2,226	△5.8	△8.7
口和町	864	3,099	856	2,975	△0.9	△4.0
高野町	808	2,954	779	2,802	△3.6	△5.1
比和町	701	2,394	682	2,315	△2.7	△3.2
合計	26,076	86,068	26,861	85,316	3.0	△0.9

資料：「国勢調査報告」（昭和60年，平成2年）

5 交 通

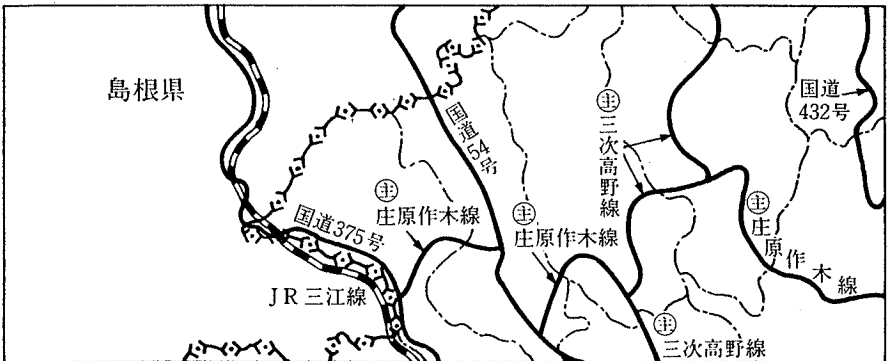
この図幅内の主要交通施設をみると、鉄道はJR三江線がある。

三江線は、三次市と江津市を結ぶ鉄道路線で、この図幅内では高宮町、作木村を通過している。

道路を見ると、国道では、54号が広島市から松江市を結んでおり、三次市、布野村を通過している。また、375号が呉市から大田市を結び作木村を通り、432号が竹原市から松江市を結び庄原市、比和町を通過している。

このほか、主要地方道庄原作木線を図幅の東西方向に、主要地方道三次高野線が図幅の南北方向に走っている。

図-2 主要交通施設



Ⅲ 主要産業の概要

この図幅内の市町村別、産業別就業人口は、表－５のとおりである。総数は、平成２年10月１日現在46,902人で、産業別にみると、第１次産業は10,241人、21.8％、第２次産業は14,363人、30.6％、第３次産業は22,236人、47.4％となっている。

この地域は、第１次産業の比率が21.8％と県平均の6.3％を大きく上回っているのに対し、第３次産業の比率は47.4％と県平均の58.9％を大きく下回っている。

表－５ 産業別就業人口

(単位：人，％)

市町村	総数	第１次産業		第２次産業		第３次産業	
		うち 農業	うち 製造業	うち 卸売 小売業等			
三次市	21,040 (100.0)	3,034 (14.4)	2,959	6,177 (29.4)	4,284	11,780 (56.0)	4,354
庄原市	12,073 (100.0)	2,233 (18.5)	2,182	3,891 (32.2)	2,530	5,944 (49.2)	2,014
美土里町	2,413 (100.0)	815 (33.8)	804	869 (36.0)	653	728 (30.2)	180
高宮町	2,959 (100.0)	1,075 (36.3)	1,061	1,034 (34.9)	696	847 (28.6)	199
君田村	1,136 (100.0)	366 (32.2)	346	325 (28.6)	200	442 (38.9)	111
布野村	1,284 (100.0)	397 (30.9)	390	319 (24.8)	211	568 (44.2)	149
作木村	1,259 (100.0)	491 (39.0)	482	373 (29.6)	199	395 (31.4)	93
口和町	1,776 (100.0)	652 (36.7)	627	505 (28.4)	274	618 (34.8)	162
高野町	1,593 (100.0)	687 (43.1)	651	443 (27.8)	190	463 (29.1)	127
比和町	1,369 (100.0)	491 (35.9)	423	427 (31.2)	261	451 (32.9)	130
合計	46,902 (100.0)	10,241 (21.8)	9,925	14,363 (30.6)	9,498	22,236 (47.4)	7,519
県計	1,414,268 (100.0)	88,934 (6.3)	80,872	486,415 (34.4)	350,447	832,912 (58.9)	319,565

資料：「国勢調査報告」（平成２年）

(注)：()は構成比。総数には、分類不能の産業を含む。

1 農 業

図幅内の市町村の総農家数は、11,356戸で、専業別の割合は、県全体に比べ専業農家がやや低くなっており、第1種兼業農家及び第2種兼業農家の割合がやや高くなっている。

農業粗生産額は、表-7のとおりで、米の割合が全体の48.8%と最も高く、次に畜産が34.1%となっている。一方、野菜と果実は合わせて14.0%と県平均の26.1%に比べ非常に低い割合となっている。

表-6 専業別農家数

(単位：戸，%)

市町村	総農家数	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家
三 次 市	3,404 (100.0)	539 (15.8)	185 (5.4)	2,680 (78.8)
庄 原 市	2,861 (100.0)	452 (15.8)	134 (4.7)	2,275 (79.5)
美 土 里 町	879 (100.0)	149 (17.0)	86 (9.8)	644 (73.2)
高 宮 町	1,210 (100.0)	286 (23.6)	80 (6.6)	844 (69.8)
君 田 村	408 (100.0)	63 (15.5)	24 (58.8)	321 (78.7)
布 野 村	414 (100.0)	60 (14.5)	41 (9.9)	313 (75.6)
作 木 村	546 (100.0)	140 (25.7)	64 (11.7)	342 (62.6)
口 和 町	617 (100.0)	89 (14.4)	75 (12.2)	453 (73.4)
高 野 町	573 (100.0)	71 (12.4)	117 (20.4)	385 (67.2)
比 和 町	444 (100.0)	54 (12.2)	34 (7.6)	356 (80.2)
合 計	11,356 (100.0)	1,903 (16.8)	840 (7.4)	8,613 (75.8)
県 計	102,936 (100.0)	19,989 (19.4)	6,013 (5.9)	76,916 (74.7)

資料：農林水産省「1990年世界農林業サンセス」

(注)：()内は構成比

表一7 農業粗生産額（平成4年）

（単位：100万円，％）

市町村	農業 粗生産額	うち米	うち野菜	うち果実	うち畜産
三次市	4,964 (100.0)	2,772 (55.8)	334 (6.7)	887 (17.9)	750 (15.1)
庄原市	6,103 (100.0)	2,433 (39.9)	265 (4.3)	62 (1.0)	3,165 (51.9)
美土里町	1,487 (100.0)	762 (51.2)	121 (8.1)	13 (0.9)	555 (37.3)
高宮町	2,467 (100.0)	1,159 (47.0)	117 (4.7)	47 (1.9)	1,102 (44.7)
君田村	615 (100.0)	395 (64.2)	63 (10.2)	2 (0.3)	126 (20.5)
布野村	762 (100.0)	325 (42.7)	74 (9.7)	25 (3.3)	282 (37.0)
作木村	661 (100.0)	276 (41.8)	55 (8.3)	166 (25.1)	140 (21.2)
口和町	1,244 (100.0)	709 (57.0)	43 (3.5)	3 (0.2)	460 (37.0)
高野町	1,639 (100.0)	727 (44.4)	416 (25.4)	158 (9.6)	314 (19.2)
比和町	830 (100.0)	573 (69.0)	46 (5.5)	4 (0.5)	197 (23.7)
合計	20,772 (100.0)	10,131 (48.8)	1,534 (7.4)	1,367 (6.6)	7,091 (34.1)
県計	137,762 (100.0)	53,165 (38.6)	19,552 (14.2)	16,405 (11.9)	37,302 (27.1)

資料：中国四国農政局広島統計情報事務所

「広島農林水産統計年報」（平成4年～平成5年）

（注）：（ ）内は構成比

2 林 業

この図幅内の市町村の民有林面積は、103,144ha、森林面積量は10,684千³m³である。

天然林は、大部分がマツと広葉樹で占められているのに対し、人工林は、大部分がヒノキとスギで占られている。

表一 8 森林面積等

(単位 : ha, 1,000m³, %)

市町村	民有林面積	蓄積量	人工林面積	人工林率	国有林面積
三 次 市	16,341	1,758	2,829	17.3	478
庄 原 市	17,306	1,585	3,959	22.9	599
美 土 里 町	8,631	884	2,055	23.8	2,045
高 宮 町	9,072	919	1,550	17.1	760
君 田 村	5,892	710	2,530	42.9	1,593
布 野 村	6,886	760	3,167	46.0	559
作 木 村	7,668	762	2,897	37.8	7
口 和 町	8,970	935	3,409	38.0	563
高 野 町	11,293	1,165	3,346	29.6	2,711
比 和 町	11,085	1,206	4,608	41.6	821
合 計	103,144	10,684	30,347	29.4	10,136

資料 : 「広島県林務部行政資料」 (平成 6 年 3 月)

3 商 工 業

この図幅内の市町村の商業の概要をみると、平成3年7月1日で商店数1,808人、従業者数7,185人であり、年間商品販売額（平成2年7月1日から平成3年6月30日まで）は、約2,076億円で、その94.0%を三次市と庄原市が占めている。

工業についてみると、平成4年12月末現在で事業所数306、従業者数8,601人であり、製造品出荷額（平成4年1月1日から平成4年12月31日まで）は約1,465億円で、その85.8%を三次市と庄原市が占めている。

表－9 商工業の概要

（単位：人、100万円、％）

市町村	商 業（平成3年）			工 業（平成4年）		
	商店数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	製造品出荷額等
三 次 市	945 (52.3)	4,415 (61.5)	154,900 (74.6)	116 (37.9)	4,651 (54.1)	91,343 (62.3)
庄 原 市	486 (26.9)	1,817 (25.3)	40,166 (19.4)	103 (33.7)	2,408 (28.0)	34,438 (23.5)
美 土 里 町	61 (3.4)	183 (2.6)	2,640 (1.3)	15 (4.9)	331 (3.8)	5,557 (3.8)
高 宮 町	70 (3.9)	214 (3.0)	2,219 (1.1)	18 (5.9)	443 (5.2)	8,573 (5.9)
君 田 村	24 (1.3)	46 (0.6)	677 (0.3)	11 (3.6)	99 (1.2)	854 (0.6)
布 野 村	33 (1.8)	75 (1.0)	1,243 (0.6)	9 (2.9)	115 (1.3)	3,014 (2.1)
作 木 村	37 (2.0)	74 (1.0)	475 (0.2)	7 (2.3)	169 (2.0)	1,417 (0.9)
口 和 町	58 (3.2)	112 (1.6)	1,743 (0.8)	6 (2.0)	90 (1.0)	216 (0.1)
高 野 町	45 (2.5)	139 (1.9)	2,315 (1.1)	10 (3.2)	128 (1.5)	548 (0.4)
比 和 町	49 (2.7)	110 (1.5)	1,266 (0.6)	11 (3.6)	167 (1.9)	563 (0.4)
合 計	1,808 (100.0)	7,185 (100.0)	207,644 (100.0)	306 (100.0)	8,601 (100.0)	146,523 (100.0)
県 計	51,235	289,533	16,768,280	9,348	282,972	9,047,349

資料：広島県企画振興部情報統計課 「平成3年商業統計調査結果報告」
「平成4年工業統計調査結果報告」

(注)：1 商業は、卸売業・小売業
2 工業は、従業者4人以上の事業所
3 ()内は構成比

IV 開発の現況と方向

この地域は、広島県の北部に位置し、人工の過疎化、高齢化が進み、ほぼ全域が過疎地域活性化特別措置法に基づく過疎地域になっている。また、ほぼ全域が山村振興法に基づく振興山村指定地域になっている。

この地域の開発動向を見ると、中国横断自動車道尾道松江線の建設が計画されている。将来、この自動車道の開通により、中国縦貫自動車道と結節点で中国地方における東西南北の高速交通の接点となる地域の後背地として、広域交流性が高い圏域となる潜在能力を有することとなる。

この高速交通体系の整備により、地域の自然条件を活用した町づくりに寄せる期待は大きいものがある。

農林関係の開発動向としては、大規模林業圏の開発のための大規模林道と広域基幹林道の整備事業が進行している。

観光面では、豊かな自然と清流を生かした親水性の自然探勝が中心となっている。これを利用したアメニティー施設としてほたる見公園、鮎の里公園がある。

今後、中国横断自動車道の整備により、広域レクリエーションルートの形成とリゾート開発等の施策の展開により県内外観光客の誘致拡大が期待される。

したがって、今後の土地利用、県土保全にあたっては、地域の特性を生かすとともに、優れた自然環境や景観に配慮し、秩序ある開発を行い、適正な県土の利用を図る必要がある。

各 論

I 地形分類図

1 地形の概要

本地域は広島県北部に位置し、比婆山山系の南西部にあたる。山地の高度は、図幅北西部の島根県境付近や図幅中北部の火山岩山地ではおおむね800~900mであり、標高1000mを越える山は熊山(1019m)のみである。中北部の火山岩山地には八国見山(845m)をはじめ、火室山(847m)などの玄武岩~安山岩のドーム状の山々が連なる。図幅中部から南部では山地高度は400~700mになり、低起伏の山地が多くなる(図)。本図幅は、日本海に注ぐ江の川水系西城川の流域にあたり、その本流や支流は南部の三次盆地に集まり他の支流や江の川本流と合流した後、島根・広島県境に沿って江津に向かって流下する。図幅南東部には庄原盆地の北東部がかかり、また小規模な山間盆地は図幅中部に発達する。

中国山地背梁部の山地地形の特徴は、山頂部に侵食小起伏面と呼ばれる山頂平坦面が発達していることであるが、本図幅は背梁山地の南部にあたることから、このような山頂平坦面はみることができない。また図幅西部には中国山地背梁部がかかっているものの、比婆山山系と芸北山系のちょうど中間部にあたり、1000mを越すような高い山がないことから、同様に山頂平坦面は発達していない。侵食小起伏面は山頂部や尾根のみでなく、高位の谷底として残されている場合がある。図幅中部には、標高400~600mの高度に面積は狭いながら、浅く谷壁の傾斜が緩やかな谷が分布している。これらの谷は、前輪廻の侵食基準面に規定されて形成されたものと推定される。このような平坦面は、ほぼ中国地方全域に分布する3段に大別される侵食小起伏面(高位面、中位面、低位面)のうち、中位面の八幡高原面(吉備高原面)に対比されている。中位面は第三紀中新世以降形成された侵食面である。

狭義の谷底平野(沖積平野)は、庄原市本郷町や上布野、永田付近など比較的規模の大きい江の川の支流沿いに、幅1km以下でわずかに発達するのみで、ほとんどの支流沿いには平野と認定できるほどの低地は分布せず、山地斜面が直接河床に接している場合が多い。また、側方からの支流の出口には、小規模な沖積錐が発達している場合がある。これらの沖積錐は、地形や堆積物の特徴から過去の土石流によって形成されたものと推定され、大河川が山間部から平野に流れ出てくる場所に形成される扇状地とは形成過程が異なるものである。また、布野川沿いの上布野付近などには、幅は狭く断片的ではあるが数段の河

成段丘が発達している。

高野町の火室山付近、布野村横谷、口和町永田、また庄原市本郷町などには、小起伏の丘陵が分布している。また、この丘陵は明瞭な傾斜変換線をもって山地に接している。これは、山地が抵抗性の強い流紋岩質岩石で構成されているのに対し、山麓地やその他の小起伏の丘陵は軟らかい第三紀層や風化が進んだ花崗岩からなっているためと考えられる。高野町の火室山周辺の丘陵地はその西側にある中起伏山地ときわめて明瞭な急崖でもって接している。これは、北方の毛無山方面まで連続する毛無山断層によるもので、断層崖付近では、第三系の備北層群が断層によって引きずられている。

本図幅には空中写真によって認められる崩壊地形はほとんどなく、比較的斜面が安定している地域と言える。

本地域は広島市の都心部から隔たった位置にあるため、宅地開発などによる大規模な地形の人工改変はほとんどなく、人工改変地のほとんどは採石場である。

2 各地形区の特徴

I 山地

I a 比和山地

本山地は図幅北東端に位置し、標高500~700mの小~中起伏の山地である。山地の西端には西城川支流の比和川が流れる。比和の中心集落南には、小規模な河成段丘が発達している。

I b 当根山地

本山地は図幅北東部に位置し、比和山地と比和川をはさんで隣接している。山地南部は標高800m弱の中起伏山地からなるが、北部は低起伏の山地が主体をなす。

I c 川北山地

本山地は図幅中東端に位置し、標高400~700mの中起伏山地がその主体をなす。南端部にはやや起伏の小さい山地があり、西城川がつくる谷底平野へと連続する。山地の西側は比和川によって限られている。山地には比較的幅の広い前輪廻谷とよばれる浅い谷が見られる。

I d 山内山地

本山地は図幅南東端に位置し、標高300~450mの小起伏の山地である。本山地北側は西城川に限られ、南側は庄原盆地の北部と接している。北側を流

れる西城川へ合流する支谷の出口には、土石流性沖積錐が発達する。

I e 熊山山地

本山地は図幅北東部に位置し、標高1019mで本図幅最高峰の熊山（笠尾山）を中心とする中起伏山地である。山地の西側は毛無山断層崖によって限られ、直線的な急崖が中国山地脊梁部の毛無山まで連続している。

I f 釜峰山山地

本山地は図幅中央部に位置し、釜峰山（788m）を中心とする中起伏山地である。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。本山地の周辺部には小規模な沖積錐が谷の出口に発達している。

I g 貴船山山地

本山地は図幅南東部に位置し、貴船山（454m）を中心とする小起伏の山地である。本山地の地質は主として花崗岩からなっている。風越山山頂南側には比較的幅の広い前輪廻谷とよばれる袋状の谷がみられる。沖積錐の発達是比较的悪い。

I h 札が峠山地

本山地は図幅中北部に位置する。標高700～800mの中起伏山地である。西側は江の川の支流神之瀬川および高暮ダムがつくる神之瀬湖に接する。本山地は北側に接する頓原図幅へと連続する。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。本山地には沖積錐や谷底平野はほとんど発達していない。

I i 八国見山山地

本山地は図幅中北部に位置し、八国見山（845m）を中心とする中～大起伏山地である。八国見山は安山岩質岩石からなる美しい円錐状の山容を呈しており、その山頂からは八つの国が見渡せると言われている。八国見山付近から南流する宮内川沿いに幅狭く谷底平野が連続している。この谷に合流する山腹からの小河川の出口には、小規模な土石流性沖積錐が発達している。

I j 吾妻山山地

本山地は図幅中央部に位置し、吾妻山（731m）を中心とする標高600～750mの中～小起伏山地である。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっているが、北部の小起伏部には花崗岩が分布する。本山地周辺には沖積錐が比較的良好に発達している。

I k 狐塚山山地

本山地は図幅中央部に位置し、狐塚山（507m）を中心とする小起伏山地である。花崗岩からなる本山地は中央を萩川峡谷によって東西に分断されて

いる。また、山地の東部には第三系の備北層群が分布している。

I l 後山山地

本山地は図幅中央下端部に位置し、西城川より南側の小起伏山地である。山地は南接する三次図幅へと連続している。山地高度は200～350m程度である。本山地の地質は主として花崗岩からなっている。西城川に合流する小河川の出口には沖積錐や河成段丘が僅かながら発達している。

I m 高山山地

本山地は図幅の北西部の島根県境に位置する。高山（803m）を北端に、伊久利山（798m）、八頭が丸（814m）などの山々が、南側に連なっている主として中起伏の山地である。本山地の地質は主として高田流紋岩からなるが、西部の山地は花崗岩質岩石からなり、起伏量が比較的小さい。沖積錐の発達は悪く、山地の南側にわずかに分布する程度である。神之瀬川沿いにはわずかながら段丘が分布する。

I n 冠山山地

本山地は図幅北西部の高山山地に南接する。中心には冠山（844m）や湯谷山があり、大起伏の山地をなす。中心の大起伏山地を取り囲んで標高600～800mを中起伏山地が分布している。山地の南端は上布野・二反田断層によって東西方向のきわめて明瞭な直線伏の崖で区切られている。この断層は県の天然記念物に指定されている。冠山東麓の茂田には比較的幅の広い前輪廻谷とよばれる袋伏の谷や、山腹の小起伏面がみられる。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。

I o 風越山山地

本山地は図幅南西部にあたり、風越山（411m）、西山（463m）などの山々を含む小起伏の山地である。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。沖積錐はあまり発達していないが、山地北西部の布野川沿いに河成段丘が分布する。北隣の冠山山地との境界は断層崖による明瞭な傾斜変換線によって区切られている。

I p 亀山山地

本山地は図幅の南端部に位置し、亀山（326m）を中心とする小起伏の山地である。本山地の地質は主として吉舎安山岩からなっている。亀山西側の神之瀬原には比較的幅の広い前輪廻谷とよばれる袋状の谷がみられる。主な河川沿いには幅が狭いながら、谷底平野が分布している。

I q 女亀山山地

本山地は図幅北西端にあたり、島根県境に位置する。女亀山（830m）周辺は第三の玄武岩が広く分布している。山地は西部の中起伏山地と、東部の小起伏山地に分けられる。岡三淵や矢田には谷底平野と高位谷が分布している。

I r 岩倉山山地

本山地は図幅の西部に位置する岩倉山（617m）を含む中起伏の山地である。山地の西端には島根県との県境をなす江の川本流が北流している。地質は主として高田流紋岩からなっている。

I s 赤松山山地

本山地は図幅南西部にあたり、南隣の三次図幅の作木山地に連続する標高400~600mの中起伏の山地である。花崗岩からなる定高性のある山容をなしている。山地の西端には島根県との県境をなす江の川本流が北流している。

I t 森山山地

本山地は図幅北西端にあたり、島根県境に位置する中~小起伏山地である。山地の西端には島根県との県境をなす江の川本流が北流している。守山付近や江の川沿いには僅かながら谷底平野が分布する。

I u 羽須美山地

本山地は図幅南西端にあたり、南隣の八重図幅の羽須美山地に連続する標高400m以下の中~小起伏の山地である。小河川沿いには僅かながら谷底平野が分布する。花崗岩からなる定高性のある山容をなしている。

II 丘陵地

II a 七塚丘陵地

図幅東部にある本丘陵地は、ほとんど起伏量が比較的小さい丘陵地Iに分類される。本丘陵地は備北層群とよばれる古第三紀の砂礫層からなる。丘陵の標高はおおよそ300m以下である。丘陵地は小起伏山地によって周囲を囲まれ、流紋岩からなる山地とは明瞭な傾斜変換線によって隔てられている。

II b 火室山丘陵地

頓原図幅に続く本丘陵地は、起伏量が比較的大きい丘陵地IIに分類される。本丘陵地は玄武岩質岩石および備北層群からなる。丘陵の標高はおおよそ700~800mと比較的高く、高原状地形をなしている。丘陵地は小~中起伏山地によって囲まれ、流紋岩からなる東部の山地との間に毛無山断層による明瞭

な傾斜変換線が存在する。

II c 湯木丘陵地

本丘陵地は図幅ほぼ中央部に位置し、永田低地を取り巻く形で発達している。比較的起伏量が小さい丘陵地Ⅰがそのほとんどを占めている。丘陵の標高は350m内外で、小起伏の山地に囲まれている。花崗岩や備北層群からなる本丘陵地は、流紋岩からなる北部山地とはきわめて対照的ななだらかな地形を呈している。

II d 石原丘陵地

本丘陵地は図幅中央部に位置し、君田低地を取り巻く形で発達している。比較的起伏量が小さい丘陵地Ⅰに分類される。丘陵の標高は300m以下で、南部では小起伏の山地に、北部は上布野・二反田断層崖による明瞭な傾斜変換線でもって流紋岩山地に接している。

II e 横谷丘陵地

本丘陵地は、起伏量が比較的大きい丘陵地Ⅱに分類される。本丘陵地は花崗岩からなる。丘陵の標高はおおよそ500~600mと比較的高い。丘陵地は小起伏山地によって囲まれ、玄武岩からなる北西部の山地とは、きわめて対照的ななだらかな地形を呈している。

III 低地

III a 門田低地

図幅南東部に位置する本低地は、西城川に沿って発達する幅500m程度の狭い低地である。標高は200~250m程度の高度に、小起伏山地中をほぼ東西方向に分布している。低地と山地の間には沖積錐が発達している。

III b 七塚低地

図幅南西端に位置する本低地は、七塚丘陵地に囲まれた最大幅2 km程度の小規模な低地である。標高は200~250m程度の本低地は庄原盆地の北部にあたり、備北層群からなる丘陵地の間を縫うように流れる江の川の支流によって形成されたものである。

III c 永田低地

図幅中央部に位置する本低地は、湯木丘陵地に囲まれた最大幅1 km程度の小規模な山間低地である。標高は250~350m程度の本低地は南流する湯木川の流域にあたる。

III d 大月低地

図幅中央部に位置する本低地は、湯木丘陵西部に位置し、最大幅2 km程度の小規模な山間低地である。標高は300~350m程度の本低地は南流する萩川の流域にあたる。

III e 君田低地

図幅南部に位置する本低地は、石原丘陵地に囲まれた最大幅2 km程度の小規模な山間低地である。低地中には比較的幅の広い河成段丘が発達している。標高は200~250m程度の本低地は南流する神之瀬川の流域にあたる。低地の北部は上布野・仁反田断層崖による明瞭な傾斜変換線でもって流紋岩山地に接している。

III f 布野低地

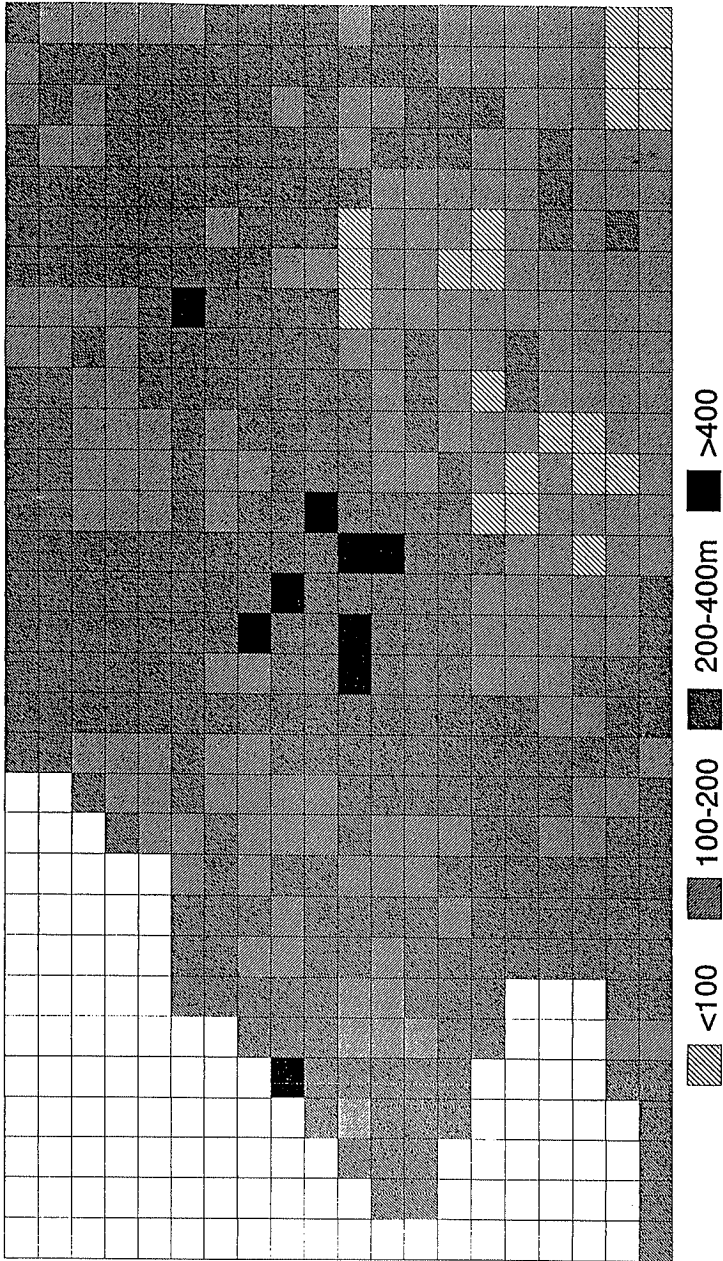
図幅南西部に位置する本低地は、山間を流れる布野川沿いに発達する最大幅1 km程度の小規模な低地である。低地中には比較的幅の広い河成段丘が数段発達しており、山麓には沖積錐が分布している。標高は180~250m程度の本低地の北部は上布野・二反田断層崖による明瞭な傾斜変換線でもって流紋岩山地に接している。

広島大学文学部	藤原建藏
東京都立大学理学部	堀信行
山口大学教育学部	前杳英明

参 考 文 献

- 木野崎吉郎ほか（1963）：広島県地質図，広島県
地質調査所（1991）：日本地質図大系，中国・四国地方，朝倉書店
藤原健藏（1980）：中国地方の侵食小起伏面研究の諸問題，西村嘉助先生退官
記念地理学論文集，159-164
藤原建藏・成瀬敏郎（1977）：自然的基礎，「広島県史-地誌編」，広島県，
13-38

図-3 赤名・上布野図幅の起伏量メッシュ



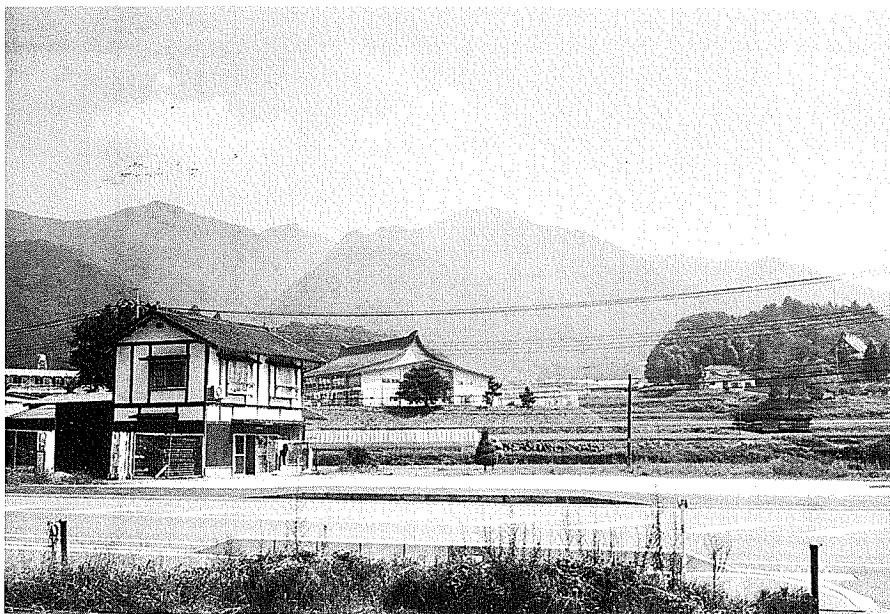


写真1 上布野から上布野・二反田断層崖を北東方向に見る



写真2 神之瀬川沿いの檀田付近に発達する河成段丘

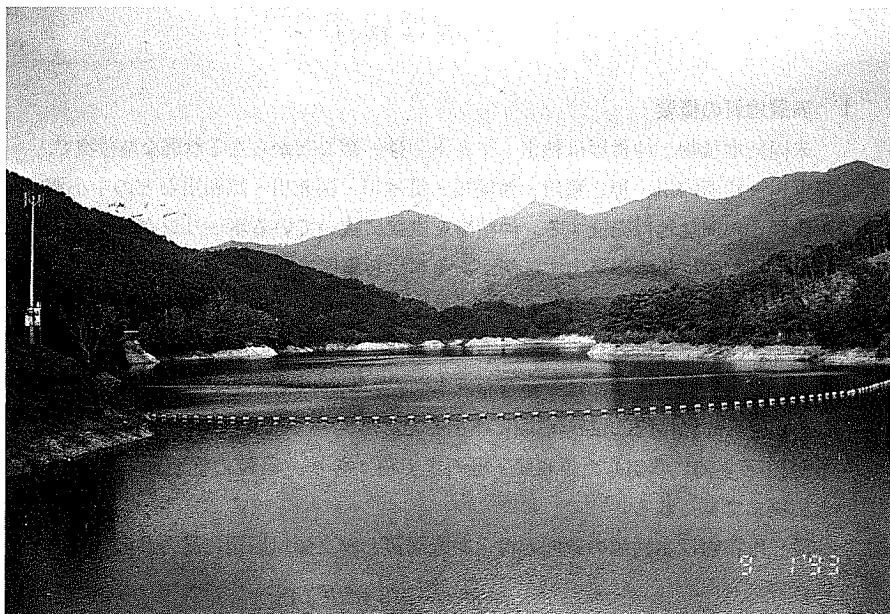


写真3 高暮ダムと神之瀬湖



写真4 宮内方面から八国見山を望む

II 表層地質図

1 表層地質の概要

未固結堆積物：沖積層は粘土・シルト・砂・礫などからなる軟弱な堆積物で、布野川・戸河内川・神之瀬川・西城川・湯木川・国兼川・比和川などの中小河川流域と山間盆地に発達する。沖積層を直接に抜いているボーリングの例はないが、河床面に基盤が露出する例がある事から層厚は薄いものと考えられる。

三瓶火山噴出物は本図幅の範囲で山地や平野部を広く被って分布するものであるが、図幅中に塗色して示すと下位に分布する岩石等の図示が困難になるため、特定の色で示すことは省略した。本図幅の範囲内では全ての地域で認められる。時代的には約2.5万年前頃に噴出したと考えられている池田降下軽石から約1.6万年前に噴出した浮布降下軽石まで種々あり、粗粒の軽石から細粒の火山灰まで見られる。

段丘堆積物は本図幅の範囲では上布野周辺と神之瀬川周辺に見られる。分布は狭い。

半固結堆積物：本図幅の範囲では新第三紀中新世に形成された備北層群が分布する。これらの堆積物は泥岩や頁岩からなる上部層と砂岩や礫岩からなる下部層に区分され、布野村・君田村・口和町・庄原市・高野町に分布する。

固結堆積物：本図幅中では作木村下作木と高宮町直会周辺に見られる。砂岩と頁岩の互層を主とし輝緑凝灰岩や石灰岩・チャートの小レンズを伴う。北帯古生層とされてきた堆積岩である。

火山性岩石・玄武岩質岩石は作木村女亀山と高野町金尾峠周辺に見られる。玄武岩質溶岩や玄武岩質凝灰岩などの碎屑岩からなる。新期玄武岩に区分される。

安山岩質岩石は作木周辺に分布する作木安山岩類と三次市山家町周辺・庄原市山内町・門田町周辺に分布する吉舎安山岩類がある。共に輝石安山岩・石英安山岩、それらの碎屑岩などからなる。前者は新生代古第三紀暁新世、後者は中世代白亜紀に噴出した。

流紋岩質岩石は高田流紋岩類に含まれるもので、本図幅中では最も広い面積を占める。特に君田村・口和町北部・庄原市北部から口和町東部～比和町の範囲に広く分布する。

深成岩：花崗岩質岩石は未区分花崗岩類、新期花崗岩類と古期花崗岩類に区分される。未区分花崗岩類は君田村藤兼・庄原市濁川町・口和町湯木周辺に、

表-10 赤名・上布野図幅中の地層及び岩石一覽

地質時代		地質系統	表層地質区分		
新生代	第四紀	沖積世	沖積世	砂・粘土・礫	未固結堆積物
		洪積世	段丘堆積物	シルト・砂・礫	
			火山噴出物	軽石・火山灰*	
			玄武岩	玄武岩質岩石	火山性岩石
	第三紀	中新世	備北層群	泥岩・頁岩 砂岩・礫岩	半固結堆積物
			暁新世	安山岩	安山岩質岩石 (作木安山岩類)
中世代	白亜紀	安山岩	安山岩質岩石 (吉舎安山岩類)	火山性岩石	
		流紋岩	流紋岩質岩石 (高田流紋岩類)		
		花崗岩	花崗岩質岩石 (未区分花崗岩類)	深成岩	
		花崗岩	花崗岩質岩石 (新期花崗岩類)		
		閃緑岩	石英閃緑岩質岩石 (新期花崗岩類)		
		花崗岩	花崗岩質岩石 (古期花崗岩類)		
		閃緑岩	石英閃緑岩質岩石 (古期花崗岩類)		
		斑岩	花崗斑岩質岩石		
古世代	ペルム紀	泥質岩	砂岩・頁岩互層 (北帯古生層群)	固結堆積物	

* 地質系統に軽石・火山灰として示した三瓶火山噴出物は、地質の細説において述べた理由により地質図の塗色表記は省略した。

新期花崗岩類は作木村西野～大畠，さらに布野村横谷周辺から口和村茂田・櫃田・向周辺まで分布する。古期花崗岩類は高宮町川根～香淀，比和町上古頃・木屋原周辺に分布する。

閃緑岩質岩石は新期花崗岩類と古期花崗岩類に区分される。前者は作木村岡三淵周辺と口和町市場周辺に，後者は比和町大谷側と庄原市石谷周辺に見られる。

斑岩質岩石は君田村高幡山南斜面から狐塚山を経て庄原市高茂町周辺，比和町と口和町の境にある釜峰山周辺に分布する。

2 表層地質の細説

I 未固結堆積物

I a 砂・粘土・礫 (SCg) (沖積層)

粘土・シルト・砂・礫などからなる軟弱な堆積物である。主に布野川・戸河内川・神之瀬川・西城川・湯木川・国兼川・比和川などの中小河川の流域と山間盆地に発達する。沖積層を直接に抜いているボーリングの例はないが，河床面に基盤が露出する例があることから層厚は薄いものと考えられる。

I b 砂・シルト・礫 (Td) (段丘堆積物)

段丘堆積物は本図幅の範囲では上布野周辺と神之瀬川周辺に見られる。分布は狭い。地形的には数段の段丘に区分出来るものと考えられるが本稿では一括して示した。

I c 軽石・火山灰 (…) (三瓶火山噴出物)

表層地質の概要にも述べたように，三瓶火山噴出物は本図幅の範囲で山地や平野部を広く覆って分布するものであるが，図幅中に塗色して示すと下位に分布する岩石等の図示が困難になるため，特定の色で示すことは省略した。本図幅の範囲内では全ての地域で認められる。時代的には約2.5万年前頃に噴出したと考えられている池田降下軽石から約1.6万年前に噴出した浮布降下軽石まで種々あり，粗粒の軽石から細粒の火山灰まで見られる。全体の層厚は北に厚く南に薄いが，軽石や火山灰降下時に谷筋であった所や斜面の下に位置する部分には特に厚く堆積している。三瓶火山噴出物は石英安山岩質で鉱物組成も大差がない。希に花崗岩の小岩片を伴う事がある程度で，外見的な特徴による識別は難しい。

II 半固結堆積物

II a 泥岩・頁岩 (Ms) (備北層群上部層)

備北層群の上部層は泥岩と頁岩からなる。所により細粒の砂岩の薄層と互層するのが見られる。上部層には軟体動物の化石は少ないが、小型有孔虫が多量に含まれている。多井は小型有孔虫の研究から備北層群上部層が堆積した時代を新第三紀中新世期Vindobonian期に相当するとしている。備北層群上部層は布野村二井殿・戸河内周辺、君田村石原・東入君周辺、三次市神之瀬原、庄原市本郷町・市町・上原町・七塚町周辺、口和町湯木周辺に分布する。層厚は20m±であろう。

II b 砂岩・礫岩 (ss) (備北層群下部層)

備北層群の下部層は塊状の砂岩と礫岩からなる。砂岩は青灰色で粗粒～中粒砂岩で時に小礫を含む。礫岩には高田流紋岩類や石英斑岩、花崗岩類の礫が多く、礫は円磨されているものが多い。また君田村東入君では砂岩中に牡蠣の化石が含まれている。同所での堆積層の傾斜はほとんど水平に近く、この傾向は断層に接する部分を除いて備北層群が分布する本図幅内では概ね共通している。赤名図幅では高宮町直会、作木村宮ノ谷・惣田・本郷周辺、上布野図幅では布野村戸河内周辺、君田村では石原・西入君・東入君周辺、三次市山家町・西河内町周辺、口和町永田・湯木・向原・大月・出口周辺、高野町奥門田周辺、庄原市湯川町周辺や山内町・上原町の一部に分布している。層厚は30m～80mと推定される。

III 固結堆積物

III a 泥質岩 (md) (北帯古生層)

泥質岩とした“北帯古生層”(長谷 1964)は、砂岩と粘版岩を主とし、その互層及び輝緑凝灰岩とチャート・石灰岩の小レンズを伴う堆積岩である。これらのほとんどが花崗岩類の貫入によって熱変成を受けている。分布は赤名図幅の高宮町直会、作木村熊見下・下作木周辺に見られる。

IV 火山性岩石

IV a 玄武岩質岩石 (B) (新期玄武岩類)

新期玄武岩類は作木村女亀山周辺と高野町・口和町の境界付近に分布する。岩質は前者は橄欖石玄武岩、後者は普通輝石橄欖石玄武岩からなり、共に各々の溶岩や火山灰、火山碎屑岩からなる。噴出時代は両者が三瓶山に起源を持

つ軽石噴出物に覆われていることからみて、それ以前の活動によるものであろう。

IV b 安山岩質岩石 (Vs) (作木安山岩類)

作木安山岩類は岩相により安山岩質凝灰岩や火山碎屑岩などに区分される。岩質的には複輝石安山岩～石英安山岩などからなり、作木村摺滝では灰青色細粒凝岩中に植物化石を含む。摺滝化石植物群と呼ばれ、松尾 (1975, 1981) は含まれている植物種の構成から、作木安山岩類の中には暁新世に形成されたものも含まれることを明らかにした。作木安山岩類は作木村伊賀和志・大津・森山西・森山東・森山中の西方と高野町大谷側西方 (含輝石角閃石安山岩質凝灰岩) に分布する。

IV c 安山岩質岩石 (Ak) (吉舎安山岩類)

吉舎安山岩類は三次市三原町・西河内町周辺、庄原市山内町・七塚町・門田町周辺、比和町下山周辺に分布し、他に小規模の貫入岩体が庄原市川北町周辺に見られる。岩質は輝石安山岩と安山岩質凝灰岩からなるが、風化変質が著しく赤褐色～紫褐色など雑多な色調を呈する。

IV d 流紋岩質岩石 (Ry) (高田流紋岩類)

この流域に分布する高田流紋岩類は黒灰色～灰色の凝灰色や凝灰角礫岩、石英斑岩や流理構造を持つ流紋岩などからなる。斑晶として石英・カリ・長石・少量の黒雲母を含むが、各々の量比や粒径は変化に富む。また粗粒の紅色正長石を含む例があるなど花崗斑岩様に見られるものもある。また後述する未区分花崗岩類に接するところでは、熱変質を受けホルンフェルスになっている例がある。分布は非常に広く、赤名図幅では美土里町、高宮町、作木村高丸・岡三淵周辺に分布する。上布野図幅では布野村北部の高山、中部の安田山、岩倉山と下布野、戸河内周辺に分布する。君田村では泉吉田・安田山周辺、北部の神之瀬川流域に、口和町では同町の北部と湯木周辺に見られる。他に比和町古頃周辺、庄原市川北町周辺と市町・本郷町の北部にも分布している。

V 深成岩

V a 花崗岩質岩石 (Gu) (未区分花崗岩類)

未区分花崗岩類に属する花崗岩質岩石は構成鉱物として石英・カリ長石・斜長石・黒雲母を含み、色調は優白色～赤褐色を呈し、構成鉱物の粒径も細粒なものが多いが、場所によって石英や黒雲母の結晶の粒径や量比の変化が著しい。高田流紋岩類の岩片を捕獲岩として含んでいる。本図幅では君田村藤兼周辺、口和町出雲石・永田周辺・庄原市中曾周辺に分布する。

V b 花崗岩質岩石 (G₂) (新期花崗岩類)

本図幅中に分布する新期花崗岩類は黒雲母角閃石花崗岩・角閃石花崗岩・黒雲母花崗岩・細粒黒雲母花崗岩などからなり、従来光守深成岩類と呼ばれていたものである。作木村光守・大畠周辺から布野村茂田、布野村北部の横谷・榎田から口和町下楨原を経て向泉・市場周辺まで、ほぼ東西に分布する。他に花崗斑岩や高田流紋岩中に小岩体として貫入している。

V c 閃緑岩質岩石 (D₂) (新期花崗岩類)

新期花崗岩類に含まれる閃緑岩質岩石は高田流紋岩類と新期花崗岩、作木安山岩類の中に貫入している。岩質は石英閃緑岩である。本図幅では作木村森山中周辺と口和町市場周辺に分布する。

V d 花崗岩質岩石 (G₁) (古期花崗岩類)

古期花崗岩類に含まれる花崗岩質岩石は比和町上古頃と木屋原周辺に分布し高田流紋岩類に貫入する。岩質は黒雲母花崗岩である。

V e 閃緑岩質岩石 (D₁) (古期花崗岩類)

古期花崗岩類に含まれる閃緑岩質岩石は石英閃緑岩である。比和町大谷側と庄原市高茂町周辺に分布する。

V f 斑岩質岩石 (Gp₁)

斑岩質岩石に一括した岩石は花崗斑岩である。石英・カリ長石の斑晶を主とし少量の角閃石を含む。この岩石は淡紅色の正長石と石英の大きな結晶を含むことが多いが、所によって中粒～細粒の花崗岩質になり、時には石英の結晶に富む石英斑岩質の岩石に漸移するなど、非常に不均質で各々の境界は不明瞭である。斑岩質岩石は君田村高幡山から南東に狐塚山を経て三次市穴傘町・水越町に至る地域と、口和町釜峰山周辺に分布する。

VI 断 層

本図幅中に見られる断層は次のとおりである。

庄原市本郷町・市町の北に位置する山ノ内逆断層帯は国指定の天然記念物である。この逆断層帯で断層帯では北側に分布する高田流紋岩類が南側の新第三紀中新世備北層群の砂岩や頁岩の上に北側からNW25°～30°の緩い角度で衝上している。

上布野・二反田逆断層は布野村上布野から君田村二反田まで、ほぼ東西にのびる逆断層である。この逆断層は、断層の南側に分布する新第三紀中新世の備北層群の上に、北側に分布する高田流紋岩類や花崗斑岩が低角度で衝上しているものである。断層面の走行N85E、傾斜N70°±、断層による落差は120mを下らないと考えられている。この逆断層は、先述した山ノ内逆断層帯と共に国指定の天然記念物である。

他に口和町八国見山東側の熊谷から比和町中先途を経て木屋原中に至る断層(A)、同じく口和町八国見山北側から田口を経て北に延びる断層(B)、高宮町川根から作木村下作木を経て上作木に至る断層(C)がある。(A)は高田流紋岩類を、(B)は新第三紀備北層群の砂岩及び新期玄武岩類と高田流紋岩類の境をなしている。(C)は古生層泥質岩の中を通り、一部で新期花崗岩類と古生層泥質岩類の境をなしている。

他に地形的に断層の存在が推定されるものとしては、布野村中村から下布野に至る布野川沿いの地域があるが確証がないので省略した。

VII 斜面崩壊等地質に関連する災害

本図幅の範囲に含まれる地方自治体より提供を受けた資料によると、本図幅の範囲に含まれる急傾斜崩壊危険区域及び地滑り地は次のとおりである。

布野村	花崗岩地域 2箇所	流紋岩地域 2箇所
	新第三紀層地域(地滑り地) 1箇所	
作木村	作木安山岩類地域 5箇所	古生層地域 4箇所
庄原市	流紋岩地域 1箇所	吉舎安山岩地域 2箇所

他に記載はなかったが、広島県土地利用総合規制図(昭和63年版)によると口和町市場東側の花崗岩・流紋岩類・閃緑岩の分布地域が地滑り防止地域に指定されている。

VII 応用地質

VIIa 鉱床

本図幅の範囲内に稼業中の金属・非金属鉱山はない。

稼業中の採石場と採石量は次のとおりである。

布野村下布野 (有) 菅野産業 高田流紋岩類 56万トン/年

作木村井手平・具ノ谷 (有) 齋木砂利 作木村安山岩類

12000～13000m³/年 (約31800～34450トン/年)

庄原市門田町 (株) 三吉組 高田流紋岩類 12万トン/年

VIIb 温泉及び鉱泉

温泉と鉱泉は次の通りである。

温泉 庄原市高蔵地内 高蔵温泉

◇ 濁川地内 庄原温泉 (休止中)

鉱泉 比和町比和 比和温泉 (町営宿泊所として利用)

謝辞：本図幅の調査に際して、庄原市役所、布野村役場、作木村役場、高野町役場、比和町役場より関連資料の提供を受けた。地質図については、広島県地質図(1963)作成における1/50000原図(広島県県民生活部土地対策課所蔵)を参考資料として使用させていただいた。関係各位に対して感謝の意を表します。

広島県土地分類基本調査研究会 柴田喜太郎

参 考 文 献

- 広島県 (1964) : 広島県地質図, 同説明書, 広島県, pp182
- 吉田博直 (1961) : 中国地方中部の後期中生代の火成活動,
- 広島大学理学部地学教室 (1953) : 地学巡検案内書「上根・船佐・三次・三良坂・庄原・勝光山」,
広島大学理学部地学教室, pp50
- 松尾秀邦 (1975) : 本邦の新植代に見られる 2・3 の事項について,
金沢大学教養部論集, 自然科学, 1, p39-65
- 松尾秀邦 (1981) : 西南日本における後期白亜紀酸性岩類に伴う大型植物化石群について,
愛媛大学紀要, 自然科学, D, 9, PP31-38

Ⅲ 土 壤 図

土壤概説

1 山地及び丘陵地の土壤（林地土壤）

「赤名」「上布野」の2図幅には広島県北部の三次市、庄原市、高田郡美土里町、高宮町、双三郡君田村、布野村、作木村、比婆郡口和町、高野町、比和町が含まれる。

本図幅内の水系はすべて江の川水系に属している。北部の700～1000m級の山地から流れ出したいくつかの支流は、一旦南下して西城川などに合流して西方に向かった後、江の川に合流して日本海へと北流している。

林地の植生はコナラ・クヌギ等の広葉樹林が大部分を占めており、図幅南部のやや乾燥した尾根筋や丘陵地にはアカマツ林も見られる。また、本図幅の領域内は降水量が多く、土壤も比較的湿潤なため、スギ・ヒノキの造林に適した場所が多く、県の西北部と並ぶ林業地域となっている。

出現する林地土壤は2土壤群、22土壤統である（表-11）。その分布の特徴は次のとおりである。

- (1) 火山灰を母材とする黒ボク土が図幅全域の平坦な山頂や尾根、谷沿いの緩凹部に広い面積にわたって分布している。
- (2) 火山灰以外のところでは花崗岩類を母材とした褐色森林土と流紋岩類を母材とした褐色森林土が図幅の大部分を占めている。また、安山岩類を母材とした褐色森林土が三次市、庄原市、作木村、比和町において出現し、第三紀層を母材とした褐色森林土が庄原市、君田村、布野村、口和町、高野町の比較的平坦な丘陵地において小面積出現する。同様に面積的にはわずかであるが、玄武岩類を母材とする褐色森林土が布野村および作木村の女亀山南側山麓と口和町および高野町の金尾峠周辺部において、古生層を母材とした褐色森林土が高宮町、作木村において出現する。
- (3) 褐色森林土に対する乾性褐色森林土の出現割合は、図幅東南部においてやや高くなる傾向を示しているが、全体としては乾性褐色森林土の出現割合は低い。
- (4) 湿性褐色森林土が赤名図幅全域および上布野図幅北部の急峻な谷筋において小面積出現する。

表-11 山地、丘陵地の土壤分類表

土壌群	土壌亜群	土壌統群	土壌統	記号	地質・母材	地 形
黒ボク土	黒ボク土	厚層黒ボク土壌	大屋統	Oya	火山灰	—
		黒ボク土壌	七塚原統	Nan	火山灰	—
褐色森林土	乾性褐色森林土	乾性褐色森林土壌	鳴瀬山1統	Nar-1	花崗岩類	山地
			大黒目山1統	Oku-1	花崗岩類	山地
			川北1統	Kwa-1	流紋岩類	山地
			始終1統	Sis-1	古生層	山地
			庄原1統	Sho-1	第三紀層	丘陵地
		(黄褐色系)	横谷1統	Yko-1	花崗岩類	山地
			撫臼山1統	Nad-1	花崗岩類	山地
			檜村1統	Hin-1	安山岩類	山地
		(赤褐色系)	大黒目山2統	Oku-2	花崗岩類	山頂平坦面
			双三1統	Fut-1	流紋岩類	山頂平坦面
	褐色森林土	褐色森林土壌	鳴瀬山2統	Nar-2	花崗岩類	山地
			大黒目山3統	Oku-3	花崗岩類	山地
			川北2統	Kwa-2	流紋岩類	山地
			始終2統	Sis-2	古生層	山地
庄原2統			Sho-2	第三紀層	丘陵地	
横山統			Yok	玄武岩	山地	
(黄褐色系)		横谷2統	Yok-2	花崗岩類	山地	
		撫臼山3統	Nad-3	流紋岩類	山地	
		檜村3統	Hin-3	安山岩類	山地	
湿性褐色森林土		湿性褐色森林土壌	大佐統	Osa	全地質	山地

2 台地、低地地域の土壤（農地土壤）

本図幅内には流紋岩、花崗岩及び火山灰に由来する土性が強粘～粘質の土壤が広く分布する。出現する土壤群は黒ボク土、多湿黒ボク土、黒ボクグライ土、褐色森林土、灰色台地土、グライ台地土、黄色土、褐色低地土、灰色低地土及びグライ土である。分布は地質、地形の影響を受けて複雑である。

本図幅の北部と西部の作木村にはまとまった広がりをもった耕地はみられず、狭小な谷底平野山麓や山腹緩斜面にかけて強粘～粘質の黒ボク土、多湿黒ボク土、黒ボクグライ土などの火山灰に由来する土壤が広く分布している。また、本図幅の中部にも火山灰に由来する土壤が広く分布している。南部の三次市、庄原市には、強粘～粘質の灰色低地土、強グライ土が分布している。

分布する土壤の種類は10土壤群、24土壤統群、51土壤統である。

表-12 台地、低地地域の土壤分類一覧

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統
黒 ボ ク 土	厚層腐植質黒ボク土	赤 井 統 ぬ る ゆ 統
	表層多腐植質黒ボク土	藤 沢 統
	表層腐植質黒ボク土	俵 坂 統
多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	深 井 沢 統 高 松 統
	表層腐植質多湿黒ボク土	三 輪 統 上 尾 統 鹿 畑 統 桧 木 沢 統 時 庭 統
黒ボクグライ土	腐植質黒ボクグライ土	岩 屋 谷 統 半 谷 統 藤 間 統
褐色森林土	細粒褐色森林土	上 統
灰色台地土	細粒灰色台地土	小 向 統 喜 久 田 統
	中粗粒灰色台地土	長 笹 統
グライ台地土	細粒グライ台地土	歌 代 統 橋 本 統

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統
黄 色 土	細粒黄色土	赤 山 統
	細粒黄色土, 斑紋あり	江 戸 乙 統 新 野 統
	中粗粒黄色土, 斑紋あり	都 志 見 統
褐 色 低 地 土	礫質褐色低地土, 斑紋あり	井 尻 野 統
灰 色 低 地 土	細粒灰色低地土, 灰色系	四 倉 統 藤 代 統 嶋 島 統 宝 田 統
	中粗粒灰色低地土, 灰色系	加 茂 統 清 武 統
	礫質灰色低地土, 灰色系	追 子 野 木 統 国 領 統
	細粒灰色低地土, 灰褐色系	諸 橋 統 緒 方 統 金 多 良 統 安 多 来 統
	中粗粒灰色低地土, 灰褐色系	善 通 寺 統 納 倉 統
	礫質灰色低地土, 灰褐色系	松 本 統
	灰色低地土, 下層黒ボク	野 市 統 高 崎 統
グ ラ イ 土	細粒強グライ土	富 曾 亀 統 田 川 統 西 山 統 東 浦 統 竜 北 統
	細粒グライ土	保 倉 統 千 年 統
	グライ土, 下層黒ボク	高 畑 統

土壤細説

1 山地及び丘陵地域の土壤（林地土壤）

(1) 黒ボク土

ア 厚層黒ボク土

○大屋統（Oya）

黒色土層が50cm以上の黒色火山灰土で、主として二次堆積性である。本図幅では北部の布野村室と作木村岡三淵の女亀山山麓および高野町奥門田などの平坦な丘陵地や図幅全域の窪地・谷筋において出現する。腐食に頗る富むA層を有し、黒色のA層からB層へ漸変する。A層の土性は微砂質壤土で軟らかい。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育し、その成長は良好である。スギ・ヒノキの造林に適している。

イ 黒ボク土

○七塚原統（Nan）

黒色土層が50cm以下の黒色火山灰土である。図幅全域の平坦な山頂や窪地、傾斜の緩やかな谷筋において出現する。腐食に頗る富むA層からB、C層に判、漸変する。丘陵地などでは下層に腐朽浮石層を伴うことがある。また、斜面の上部から流出してきた褐色森林土などの土層が火山灰層を被覆している場合もある。主としてアカマツやコナラなどの広葉樹が生育しており、成長は良好である。林業的な生産力は高く、スギ・ヒノキの造林に適している。

(2) 乾性褐色森林土

ア 乾性褐色森林土壤

○鳴瀬山1統（Nar-1）

花崗岩類を母材として尾根筋や凸形斜面に小面積分布する乾性の残積土壤である。高宮町川根、布野村横谷、作木村香淀・上作木・大畠等で出現する。層位の分化は進んでいるが、土層全体は比較的浅い。表層には粗粒状や細粒状構造の発達が見られる。下層への腐植の浸透は少ない。主としてアカマツやコナラなどの広葉樹が生育しているが、その成長は不良である。

○大黒目山統（Oku-1）

花崗岩類を母材とする乾性の褐色森林土である。比和町木屋原付近の山

地や丘陵地の尾根部に小面積出現する。A_o層が厚く、菌糸網層を形成することもある。A層は薄く、腐植の浸透は進んでいない。土質は埴質壤土で半角礫を含む。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹林となっていることが多いが、成長はやや不良である。

○川北1統 (Kwa-1)

流紋岩類を母材として、開析の進行した山地の尾根部に分布する乾性の褐色森林土である。庄原市川北町・市町、布野村下布野、作木村香淀、口和町竹地谷等において出現する。腐植に富む薄いA層を持つが、下層への腐植の浸透は少ない。土性は埴質壤土～埴土で、下層は堅密である。アカマツやコナラなどの広葉樹が生育しているが、その成長はやや不良である。

○始終1統 (Sis-1)

古生層粘板岩類を母材として、開析の進行した土地の尾根部に分布する乾性褐色森林土である。高宮町直会および作木村下作木において小面積出現する。A_o層はやや厚い。一方、A層は腐植に富むが薄い。土性は埴土で、B層以下は半角礫に富む。アカマツやコナラなどの広葉樹の生育は比較的良好で、ヒノキの造林も可能である。

○庄原1統 (Sho-1)

第三紀層を母材として、丘陵地や山地上部の平坦面などにおいて広く分布する乾性褐色森林土である。三次市山家町、庄原市本郷町・上原町、君田村石原・東入君、布野村上布野・戸河内、口和町永田・湯木・向泉・宮内等の平坦な尾根部に出現する。A層は薄く、下層への腐植の浸透は少ない。土性は埴土でA、B層とも比較的軟質である。アカマツやコナラなどの広葉樹が生育するが、その成長は中程度である。

イ 乾性褐色森林土壌 (黄褐色)

○横谷1統 (Yko-1)

花崗岩類を母材として、山地の尾根部に分布する残積性の乾性褐色森林土で、土色が黄褐色 (10YR) を呈するものである。君田村櫃田・藤兼・西入君・東入君、布野村横谷、作木村光守・大畠、口和町金田・湯木等で

出現する。Ao層は厚く、特に厚いH層を有する。A層は薄く、下層への腐植の浸透も不良である。土性は砂質壤土で、下層は堅密である。表層に菌糸網層を伴うこともある。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育しているが、その成長はやや不良である。

○撫臼山1統 (Nad-1)

流紋岩類を母材として、山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。三次市山家町、庄原市川北町、君田村櫃田・泉吉田、布野村下布野・戸河内、作木村伊賀和志・森山西・岡三淵、口和町竹地谷・大月・向泉・宮内・湯木、高野町高暮、比和町古頃等において出現する。A層は腐植を含むが比較的薄く、下層への腐植の浸透は少ない。土性は砂質壤土で、A、B層には小、中半角礫が含まれる。表層に菌糸網層が散見されることがある。アカマツやコナラなどの広葉樹が生育しているが、その成長はやや不良である。

○檜村1統 (Hin-1)

安山岩類を母材として、開析の進行した山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。三次市山家町、庄原市門田町・本郷町、作木村伊賀和志・森山西、比和町比和等で小面積出現する。表層は腐植を含むが薄く、下層への腐植の浸透も不良である。土性は埴質壤土で、比較的軟質である。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育するが、その生育はやや不良である。

ウ 乾性褐色森林土壌(赤褐色)

○大黒目山2統 (Oku-2)

花崗岩類を母材として、山地の尾根部に分布する残積性の乾性褐色森林土で、土色が赤褐色(5YR)を呈するものである。君田村東入君、作木村森山中、口和町金田等で小面積出現する。A層は腐植を含むが薄く、下層への腐植の浸透はほとんどない。土層全体の厚さも薄い。土性は埴質壤土で、下層は半角礫に富む。アカマツやコナラなどの広葉樹が生育しているが、その生育は不良である。

○双三1統 (Fut-1)

流紋岩類を母材として、山地や丘陵地の尾根部に分布する乾性褐色森林土で、土色が赤褐色（5 YR）を呈するものである。布野村下布野、作木村香淀において小面積出現する。A層は腐植に富むが厚さは薄く、下層への腐植の浸透はほとんどない。土性は埴質壤土で全体に堅密である。アカマツやコナラなどの広葉樹が生育しているが、その生育は不良である。ヒノキ造林木の成長も不良である。

(3)褐色森林土

ア 褐色森林土壌

○鳴瀬山2統（Nar-2）

花崗岩類を母材として、鳴瀬山1統と同一地域の山地の中腹から谷部に分布する褐色森林土である。A層は腐植に富み、下層への腐植の浸透も良好である。下層は石礫に富み、土性は砂質壤土である。コナラ・クヌギなどの広葉樹の生育は良好で、スギ・ヒノキの造林にも適している。

○大黒目山3統（Oku-3）

花崗岩類を母材として大黒目山1統と同一地域の山地の中腹から谷部に分布する褐色森林土である。A層は腐植に富み、団粒状構造を示す。土層は厚く、下層への腐植の浸透も良好である。土性は埴質壤土～砂質壤土で、下層は石礫に富む。アカマツやコナラなどの広葉樹が生育するが、ヒノキの造林も可能である。

○川北2統（Kwa-2）

流紋岩類を母材として、川北1統と同一地域の山地の中腹から谷部に分布する褐色森林土である。A層は腐植に富み、比較的厚い。下層への腐植の浸透は良好で、土層全体も厚い。土性は埴質壤土で、角礫を含む。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育しており、その成長は良好である。同様にスギ・ヒノキの造林木の成長も良好で、造林に適している。

○始終2統（Sis-2）

古生層粘板岩を母材として、始終1統と同一地域の山地斜面や谷部に分布する褐色森林土である。A層は腐植に富み、下層への腐植の浸透も良好で土層全体も厚い。土性は埴土で比較的柔らかい。コナラ・クヌギなどの

広葉樹の生育は比較的良好で、スギ・ヒノキの造林にも適している。

○庄原 2 統 (Sho-2)

第三紀層を母材として、庄原 1 統と同一地域の谷部に分布する褐色森林土である。A層は腐植に富み、下層への腐植の浸透も比較的良好である。土性は埴土で、柔らかい。アカマツやコナラなどの広葉樹の生育が良好であり、ヒノキの造林も可能である。

○横山統 (Yok)

玄武岩を母材として、山地頂上付近や屋根部の黒ボク土が流亡したと思われる斜面に分布する褐色森林土である。布野村横谷、作木村岡三淵・大島、口和町宮内、高野町奥門田において小面積出現する。A層は腐植に富み、比較的厚く、下層への腐植の浸透も良好である。土性は埴土で、下層は半角礫に富む。アカマツやコナラなどの広葉樹の生育は良好で、スギ・ヒノキ人工材の成長も良好であり、造林に適している。

イ 褐色森林土壌 (黄褐色系)

○横谷 2 統 (Yko-2)

花崗岩類を母材として、横谷 1 統と同一地域の山地の中腹から谷部にかけて広く分布する褐色森林土で、土色が黄褐色 (10YR) を呈するものである。A層は腐植に富み、下層への腐植の浸透も良好である。A層は埴質壤土で半角礫を含み比較的柔らかい。下層は砂質で半角礫に富む。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹林となっていることが多く、その成長は比較的良好である。ヒノキの造林も可能である。

○撫白山 3 統 (Nad-3)

流紋岩類を母材として、撫白山 1 統と同一地域の山地の中腹から谷部にかけて広く分布する褐色森林土で、土色が黄褐色 (10YR) を呈するものである。A層は腐植に富み厚い。下層への腐植の浸透も比較的良好で、土層全体も厚い。土性は埴質壤土で下層は角礫に富む。主としてコナラ・クヌギなどの広葉樹が生育しており、その成長は良好である。スギ・ヒノキの造林に適している。

○檜村3統 (Hin-3)

安山岩類を母材として、檜村1統と同一地域の山地中腹の斜面から谷部にかけて分布する褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。A層は腐植に富んでおり、下層への腐植の浸透も比較的良好である。土性は埴質壤土で下層は角礫に富む。主としてコナラ・クスギなどの広葉樹が生育しており、その成長は良好である。ヒノキの造林に適している。

(4) 湿性褐色森林土

ア 湿性褐色森林土壌

○大佐統 (Osa)

開析の進んだ急峻な山地で崖錐の部分に分布する湿性褐色森林土である。図幅北部の傾斜の急な谷筋において小面積出現する。A層は厚く、腐植に富み柔らかい。全土層も厚く、斜面上部からの崩落土砂礫に頗る富む。林業的な生産力は高く、経済的林木生産の場としてスギ・ヒノキの造林地として利用が可能である。

各土壌統の代表地点及び断面柱状図は「土壌図」に記載した。

広島県立林業試験場	水	野	邦	彦
”	升	原	一	介
”	涌	嶋		智

2 台地、低地地域の土壌（農地土壌）

(1) 黒ボク土

本土壌は火山放出物の風化堆積層上部に暗褐色ないし黒色を呈する非泥炭質の腐植が集積したものである。腐植層の厚さは普通25～50cmの範囲にあるが、50cm以上の厚層のものも珍しくなく、100cmを超える場合もある。

ア 厚層腐植質黒ボク土

赤井統（Aki）

本土壌は腐植層の厚さが50cm以上で、腐植含量が5～10%風積性の土壌である。主要土層の土性は強粘～粘質である。

本図幅の南部、三次市山家町と布野村の南部に分布する。

ぬるゆ統（Nry）

本土壌は赤井統に類似するが、堆積様式が崩積あるいは水積であることにより赤井統と区別される。

本図幅の比和町に点在する。

イ 表層多腐植質黒ボク土

藤沢統（Fsw）

本土は腐植層の厚さがほぼ25～50cmで、腐植含量が10%以上の風積性の土壌である。主要土層の土性は強粘～粘質である。

本図幅の東部、庄原市川北町に分布する。

ウ 表層腐植質黒ボク土

俵坂統（Twr）

本土壌は腐植層の厚さがほぼ25～50cmで、腐植含量が5～10%の風積性の土壌である。主要土層の土性は強粘～粘質である。

本図幅の布野村の北部に分布する。

(2) 多湿黒ボク土

本土壌は全層腐植質（あるいは多腐植質）火山灰からなるか、表層および次表層が腐植質（あるいは多腐植質）火山灰層からなるか、全層もしくはほぼ全層が非腐植質火山灰層からなる土壌であって、土層中に斑紋（ときにはマンガン結核）が存在する土壌である。堆積様式は水積または風積で、ときに崩積の場合もある。本土壌は沖積低地、谷底や台地、丘陵地内の凹地などに分布している。

ア 厚層腐植質多湿黒ボク土

深井沢統 (Fki)

本土壤は黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さは50cm以上で、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は強粘～粘質である。

本図幅の中北部に分布する。

高松統 (Tkm)

本土壤は深井沢統に類似するが、主要土層の土性が壤(砂)質であることにより深井沢統と区別される。

本図幅のほぼ全域に点在する。

イ 表層腐植質多湿黒ボク土

三輪統 (Miw)

本土壤は黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さはほぼ25～50cmで、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は強粘～粘質で、次層は灰～灰褐色を呈する水積性の土壤である。

本図幅の三次市、庄原市、比和町及び布野村に分布する。

上尾統 (Age)

本土壤は三輪統に類似するが、主要土層の土性が壤(砂)質であることにより三輪統と区別される。

本図幅の口和町に点在する。

鹿畑統 (Kab)

本土壤は黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さはほぼ25～50cmで、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は壤(砂)質で、次層は黄～黄褐色を呈する水積性の土壤である。

本図幅の南部、三次市後山町に分布する。

桧木沢統 (Hmk)

本土壤は黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さはほぼ25～50cmで、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は壤(砂)質で、土層30～60cm以内より下部が礫層となる水積性の土壤である。

本図幅の口和町、比和町に分布する。

時庭統 (Tkn)

本土壤は黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さはほぼ25～50cmで、腐植含量は5～10%である。土層30cm以内より礫層となる水積性の土壤である。

本図幅の作木村の西部に分布する。

(3) 黒ボクグライ土

本土壤は全層腐植質（あるいは多腐植質）火山灰層からなり、全層または作土を除くほぼ全層、あるいは下層がグライ化しているか、表層および次表層が腐植質（あるいは多腐植質）火山灰層からなり、下層が無機質グライ層からなる土壌で、腐植層は一部または全部がグライ化している場合がある。土層中に斑紋が存在する。堆積様式は水積で、ときに風積、崩積の場合もある。本土壤は沖積低地、谷底地や台地、丘陵地内の凹地などに分布している。

ア 腐植質黒ボクグライ土

岩屋谷統 (Iwa)

本土壤は黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さは50cm以上で、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は強粘～強質の水積（風積・崩積）性の土壌で、全層または作土を除くほぼ全層がグライ化している。

本図幅の口和町、作木村、布野村及び君田村に分布する。

半谷統 (Hny)

本土壤は岩屋谷統に類似するが、主要土層の土性が壤（砂）質であることにより岩屋谷統と区別される。

本図幅の口和町に分布する。

藤間統 (Fjm)

本土壤は黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さはほぼ25～50cmで、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は壤（砂）質で、下層が無機質グライ層からなる土壌である。

本図幅の君田村の南部に分布する。

(4) 褐色森林土

本土壤は暗褐色の表層をもち、その下に黄褐色の次表層がある。母材は固結堆積岩、固結火成岩などで、堆積様式は残積、洪積世堆積、崩積である。分布する地形は山麓、丘陵地の斜面および台地上の平坦地である。

ア 細粒褐色森林土

上統 (Kmi)

本土壤は主に固結堆積岩に由来する残積性の土壌で、主要土層の土性は粘質で、土色は黄褐色を呈する。次表層の反応は弱酸性である。

本図幅の全域に点在する。

(5) 灰色台地土

本土壤は主として台地、丘陵地に分布し、全層またはほぼ全層が灰色ないし灰褐色を呈する土壤である。一般に土層中に斑紋が存在する土壤である。母材は一定しないが、堆積様式は残積、崩積及び洪積世堆積である。

ア 細粒灰色台地土

小向統 (Kmk)

本土壤は残積（崩積）性あるいは洪積世堆積性の土壤である。主要土層の土性は強粘質で、土色は灰～灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在するがマンガン結核は存在しない。

本図幅の南部、庄原市上原町と西部、作木村光守に分布する。

喜久田統 (Kik)

本土壤は残積（崩積）性あるいは洪積世堆積性の土壤である。主要土層の土性は粘質で、土色は灰～灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在するが、マンガン結核は存在しない。

本図幅の西部、作木村森山中に分布する。

イ 中組粒灰色台地土

長笹統 (Ngz)

本土壤は残積（崩積）性あるいは洪積世堆積性の土壤である。主要土層の土性は壤質で、土色は灰～灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南部、三次市水越町と口和町の南部に分布する。

(6) グライ台地土

本土壤は主として台地、丘陵地に分布し、全層もしくは作土を除くほぼ全層がグライ層からなるか、または次表層は灰色ないし灰褐色の土層からなり、下層がグライ層からなる土壤である。母材は一定せず、堆積様式は残積、崩積及び洪積世堆積など多岐にわたる。

ア 細粒グライ台地土

歌代統 (Uta)

本土壤は全層または作土を除くほぼ全層がグライ層からなる土壤である。主要土層の土性は粘質である。

本図幅の西部、作木村上作木、光守と中央部、君田村茂田に分布する。

橋本統 (Hms)

本土壤は50cm内外より下部がグライ層となるかあるいは上層50cm以内に厚さ20cm以上のグライ層が存在する土壤である。主要土層の土性は粘質である。

本図幅の南部、布野村戸河内と西部、作木村下作木に分布する。

(7) 黄色土

本土壤は主として丘陵地、台地及びその斜面に分布し、全層またはほぼ全層が黄色（黄褐色）を呈する土壤で、堆積様式は残積あるいは洪積世堆積である。

ア 細粒黄色土

赤山統 (Aky)

本土壤は残積性の土壤で主要土層の土性は強粘質である。土色は黄色を呈する。次表層の反応は強酸性である。

本図幅の南部、口和町金田と南西部、作木村香淀に分布する。

イ 細粒黄色土、斑紋あり

江部乙統 (Ebe)

本壤は全層あるいは作土を除くほぼ全層が黄～黄褐色を呈する土壤で、作土あるいは作土下に斑紋をもつ土壤である。主要土層の土性は粘質である。

本図幅の南東部、庄原市山内町と南部、君田村石原ならびに、南西部、作木村香淀に分布する。

新野統 (Art)

本土壤は江部乙統に類似するが、土層中にマンガン結核が存在することにより江部乙統と区別される。

本図幅の作木村に分布する。

ウ 中粗粒黄色土、斑紋あり

都志見統 (Tsm)

本土壤は全層あるいは作土を除くほぼ全層が黄～黄褐色を呈する土壤で、作土あるいは作土下に斑紋をもつ土壤である。主要土層の土性は壤質である。

本図幅の北東部、比和町木屋原に分布する。

(8) 褐色低地土

本土壤は沖積低地に分布し、全層あるいはほぼ全層が黄褐色を呈する土壤である。なお下層に灰色または灰褐色の土層が出現する土壤でも、次表層の主要部分が黄褐色の土層からなる場合は本土壤に含める。本土壤の母材は非固結堆積岩で、堆積様式は水積である。海河岸沖積平野、谷底地及び扇状地などの排水良好な所に分布する。

ア 礫質褐色低地土、斑紋あり

井尻野統 (Ijr)

本土壤は土層0～30cm以内より下部が礫層となる水積性の土壤で、土色は黄褐色を呈する。土性は多岐にわたるが、一般に壤質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の東部、口和町湯木、永田に分布する。

(9) 灰色低地

本土壤は沖積低地に分布し、全層あるいはほぼ全層が灰色ないし灰褐色を呈する土壤であるが、下層に腐植質火山灰層、泥炭層及び黒泥層などが埋没したものも含まれる。地下水位の変動や水田利用の結果、土層中に斑紋や結核をもつことが多い土壤である。

ア 細粒灰色低地土、灰色系

四倉統 (Ytk)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で、主要土層の土性は強粘質で、土色は灰色を呈する。土層中に斑紋が存在し、構造がみられる。

本図幅の南東部、庄原市七塚町に分布する。

藤代統 (Fjs)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で、主要土層の土性は粘質で、土色は灰色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の中南部に分布する。

鴨島統 (Kmj)

本土壤は藤代統に類似するが、土層中に構造が存在することにより藤代統と区別される。

本図幅の南西部、高宮町川根に分布する。

宝田統 (Tkr)

本土壤は鴨島統に類似するが、土層中にマンガン結核が存在することにより鴨島統と区別される。

本図幅の西部，作木村森山東に分布する。

イ 中粗粒灰色低地土，灰色系

加茂統 (Km)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で，主要土層の土性は壤質で，土色は灰色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南東部，庄原市濁川町と南部，口和町金田に分布する。

清武統 (Kyt)

本土壤は加茂統に類似するが，土層中にマンガン結核が存在することにより加茂統と区別される。

本図幅の君田村と北東部，比和町木屋原に分布する。

ウ 礫質灰色低地土，灰色系

追子野木統 (Okk)

本土壤は土層30～60cm以内より下部が礫質となる水積性の土壤で，土色は灰色を呈する。礫層ならびに礫層上部の土性は壤～砂質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の作木村，布野村の南部及び南西部，高宮町川根に分布する。

国領統 (Kok)

本土壤は土層0～30cm以内より下部が礫層となる水積性の土壤で，土色は灰色を呈する。土性は多岐にわたるが，一般に壤質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の中央部，口和町向泉と西部，作木村上作木，下作木に分布する。

エ 細粒灰色低地土，灰褐色系

諸橋統 (Nor)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で，主要土層の土性は強粘質で，土色は灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南東部，庄原市上原町と東部，口和町永田に分布する。

緒方統 (Ogt)

本土壤は諸橋統に類似するが，土層中にマンガン結核が存在することにより諸橋統と区別される。

本図幅の南部，三次市西河内町に分布する。

金田統 (Kan)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で，主要土層の土性は粘

質で、土色は灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南東部、庄原市濁川町と君田村の南部に分布する。

多多良統 (Ttr)

本土壤は金田統に類似するが、土層中にマンガン結核が存在することにより金田統と区別される。

本図幅の南部、三次市穴笠町と庄原市高茂町に分布する。

オ 中粗粒灰色低地土、灰褐色系

安来統 (Ysk)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で、主要土層の土性は壤質で、土色は灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の中央部、君田村泉吉田と西部、作木村伊賀和志に分布する。

善通寺統 (Znt)

本土壤は安来統に類似するが、土層中にマンガン結核が存在することにより安来統と区別される。

本図幅の南部、三次市後山町と庄原市高茂町に分布する。

納倉統 (Nok)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で、主要土層の土性は砂質で、土色は灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南部、三次市穴笠町と山家町に分布する。

カ 礫質灰色低地土、灰褐色系

松本統 (Mtm)

本土壤は土層30～60cm以内より下部が礫層となる水積性の土壤で、土色は灰褐色を呈する。礫層ならびに礫層上部の土性は壤～砂質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の口和町と南部、三次市東河内町及び北東部、比和町木屋原に分布する。

キ 灰色低地土、下層黒ボク

野市統 (Noi)

本土壤は灰～灰褐色の土層に続いて下層(30～50cm付近)に黒～黒褐色の腐植質火山灰層の埋没土層が出現する土壤である。主要土層の土性は粘質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南部、庄原市高茂町に分布する。

高崎統 (Tks)

本土壤は野市統に類似するが、主要土層の土性が壤質であることにより野市統と区別される。

本図幅の南部、三次市山家町に分布する。

(10) グライ土

本土壤は沖積低地に分布し、全層もしくはほぼ全層がグライ層からなるか、次表層がグライ層からなり、泥炭、黒泥または腐植質火山灰の埋没土層をもつか、あるいは次表層は灰色土層からなり、下層はグライ層からなる土壤などを含んでいる。一般に表層腐植層はない。母材は非固結堆積岩が主であるが、ときに下層が植物遺体、非固結火成岩の場合がある。

ア 細粒強グライ土

富曾亀統 (Fsk)

本土壤は全層もしくはほぼ全層がグライ層からなる土壤で、主要土層の土性は強粘質である。土層の上部30cm以内に斑紋が存在する。

本図幅の南東部、庄原市七塚町に分布する。

田川統 (Tgw)

本土壤は富曾亀統に類似するが、土層30cm以下に斑紋が存在することにより富曾亀統と区別される。

本図幅の南部、三次市水越町と南東部、庄原市本郷町に分布する。

西山統 (Nsh)

本土壤は全層もしくはほぼ全層がグライ層からなる土壤で、主要土層の土性は粘質である。土層の上部30cm以内に斑紋が存在する。

本図幅の南部、三次市山家町と西河内町に分布する。

東浦統 (Hgs)

本土壤は西山統に類似するが、土層30cm以下に斑紋が存在することにより西山統と区別される。

本図幅の南東部、庄原市七塚町に分布する。

イ 礫質強グライ土

竜北統 (Ryu)

本土壤は全層もしくはほぼ全層がグライ層からなる土壤で、土層30cm以内より礫層となる。土層の30cm以下に斑紋が存在しない。

本図幅の君田村の南部に分布する。

ウ 細粒グライ土

保倉統 (Hkr)

本土壤は土層50cm内外より下部がグライ層からなる土壤である。主要土層の土性は強粘質で、土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南東部、庄原市本郷町、上原町及び七塚町に分布する。

千年統 (Cht)

本土壤は土層50cm内外より下部がグライ層からなる土壤で、主要土層の土性は粘質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南部、三次市穴笠町と庄原市水越町ならびに南西部、高宮町川根に分布する。

エ グライ土, 下層黒ボク

高畑統 (Tkh)

本土壤は上層50cm以内に厚さ20cm以上のグライ層が存在する土壤で、下層(30~50cm付近)に黒~黒褐色の腐植質火山灰層の埋没土層が出現する土壤である。主要土層の土性は粘質で、通常は土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南東部、庄原市上原町に分布する。

広島県立農業技術センター 谷本俊明

IV 水系図及び谷密度図

「赤名」及び「上布野」図幅は、広島県の北部の島根県との県境部に位置する。図幅全体の水系は、中国山地の脊梁部の比婆山地南部の山地を開析し、江津市で日本海側に流出する江（ごう）の川の流域である。

水系の基本構造は、この流域の中国山地の中を走る西南西方向とそれに直交する北北西の構造線が、流路の大きな方向を決めている。例えば、比和川や西城川は西南西方向の構造線の方に制約をされており、西城川の支流の萩川や、本流の江の川が三次盆地を出てすぐ合流する神之瀬川、さらに「赤名」図幅中を日本海に向かって北流する江の川の本流の流路などは、北北西の構造線に強く制約を受けている。この他、西北西の構造線と斜交する関係で北東－南西方向の構造線に沿ったものが、比和川が西城川と合流する付近やその西の藤根川など幾つかの支流に認められる。

次に、水系分布をもう少し詳細に地形区との関係で見よう。「上布野」図幅中の水系については、江の川水系の支流である西城川の水系が、図幅の東部約70%を占める山地を開析して、三次盆地の中心部に向かって南から西南西方向に流下している。西城川は、さらに幾つかの小流域からなる。東の支流から主なものを挙げると、比和川が、高度700m前後の比和山地（地形区: I a）・当根山地（地形区: I b）・川北山地（地形区: I c）と熊山（別名を笠尾山: 1,018.9m）の熊山山地（地形区: I e）・釜峰山（788.0m）の釜峰山山地（地形区: I f）の各山地の間を流下し、山内山地（地形区: I d）の北端を西南西に流下する西城川と合流する。また、この西にやはり南流する萩川が、上流で宮内川といわれて八国見山（844.7m）の八国見山山地（地形区: I i）を経て、貴船山山地（地形区: I g）と狐塚山山地（地形区: I k）の間を南流して、後山山地（地形区: I l）の北縁を流れる西城川と合流する。西城川はここから南流して三次盆地に入り、馬洗川と合流する。両合流のすぐ下流側で、北流してきた可愛（えの）川（江の川）と合流し、江の川本流は、三次盆地を突き破り、峡谷をつくりながら西北西に流出する。

なお、江の川が盆地の外へ出てすぐ、「上布野」図幅の西側約30%の山地の水を集めて南流してきた神之瀬川が本流と合流する。神之瀬川は、上流部の高山（803.2m）のある高山山地（地形区: I m）と札が峠山地（地形区: I h）の接合部で人造湖である神之瀬湖で高暮ダムを経て、冠山（843.8m）のある冠山山地（地形区: I n）からさらに高度400m前後の風越山山地（地形区: I o）へと水を集め

て南流する川である。この川が本流と合流した後まもなく、本流は北北西に流路を急変する。それが「赤名」図幅の右下隅につながり、図幅内の中国山地の脊梁部に深い峡谷をつくりながら横断し、そのまま北流する。この間、同図幅内においては、国道375号線が江の川の流路に沿って走っている。

脊梁山地には、中国山地内によくみられる多輪廻性の谷の谷床部が、旧輪廻の広い谷の面影を残して山間に細長い盆状の低地を形成している。例えば、永田低地（地形区:IVc）や大月低地（地形区:IVd）などがそれである。

谷密度について見てみると、谷密度が30を越える部分がほとんどなく、それ以下の値のところが多い。これが、花崗岩が少ないことも関係するが、脊梁山地を開析し、急峻な斜面形が多いことを示唆していると考えられる。

この他、土地利用の農業との関係で見たとき、中国山地の脊梁部から三次盆地に向かって階段状に低下してきた山地の貴船山山地（地形区:Ig）や後山山地（地形区:II），さらにそれらに続く低地の門田低地（地形区:IVa）・七塚低地（地形区:IVb）・永田低地（地形区:IVc）・大月低地（地形区:IVd）などでは、ため池の分布が集中し、水田への水を安定して確保する工夫が認められる。

広島大学文学部	藤原 健 藏
東京都立大学理学部	堀 信 行
東京都立大学大学院	氏原 真理子

V 傾斜区分図

本図幅は広島県北部の島根県境付近にあたり、大部分が中～大起伏山地からなる。全地域が江の川の水系にあたり、その支流が北から南へ三次盆地に向かって流れている。地形は三次盆地に続く南部では、緩やかであるが、北部では江の川の支流が深い谷を刻み嵌入蛇行しており、比較的急峻な地形となっている。しかし、北部においても高野町をはじめ標高700～800m付近に割合まとまった平坦面が存在する。

傾斜3度未満の地形は、布野川、神之瀬川、木川、萩川などの河川の中、下流域に発達する谷底平野に分布する。傾斜3～8度の地域は図幅南部の谷底平野の縁辺部および図幅北部の山地内に発達する谷底平野にわずかに分布する。傾斜8～15度の地域は図幅中央部から南東部に広く分布し、それらの多くは山地と谷底平野の境界部の沖積鍾、または大谷山、大仙など山麓緩斜面である。傾斜15～20度の斜面は図幅南部の小起伏山地、丘陵地に広く分布するほか、図幅北部、標高700～800mにあたる高野町にかなりまとまって分布し、また北部の山地頂部侵食小起伏面にもわずかに見られる。20～30度の斜面は、図幅の中～北部に広く分布するが、特に高丸山、川平山、大谷山、高山、釜峰山等の中起伏山地の山体および山腹面に広く分布するほか、図幅南部の谷底平野と丘陵地の縁にわずかに分布する。30～40度の急斜面地は、神之瀬川、比和川、竹地谷川およびそれらの支流の河谷に面した斜面を構成する一般的な斜面であるほか、図幅北部の山地の山腹面の一部を構成している。40度以上の急傾斜地は神之瀬川、比和川、江の川の中上流の嵌入曲流部で、川谷に直面した狭い地域に限って分布しているに過ぎない。

広島大学文学部	藤原健藏
東京都立大学理学部	堀信行
山口大学教育学部	前空英明
広島大学大学院	細矢卓志

VI 土地利用現況図

1 農地

本図幅には比婆郡口和町、双三郡作木村、布野村及び君田村のほとんど全域と三次市、庄原市ならびに比婆郡比和町の一部と高田郡美土里町、高宮町及び比婆郡高野町のごく一部が含まれる。

本図幅内の農業は水田を主体に行われている。口和町、作木村、布野村及び君田村の経営耕地面積に占める水田面積の割合は、それぞれ92%、82%、94%、96%（平成2年）で、各町村の農産物粗生産額に占める米の割合は、口和町46%、作木村40%、布野村42%及び君田村57%である。

水田は、西城川、神之瀬川などの江の川支流流域の低地に分布する。まとまった広がりを持った水田はみられない。とくに、本図幅の北部や西部には樹枝状の谷間に狭小な水田が分布している。なお、水田のうち湿田（半湿田を含む）がほぼ半分近くを占めている。

普通畑の面積は少なく、経営耕地面積に占める普通畑の割合は10%以下である。普通畑は、河川沿いの山麓から山腹斜面に点在している。樹園地は、作木村を除いてほとんどない。作木村では経営耕地面積の6%を占めてナシの栽培が行われている。作木村の農産物粗生産額の第2位である。

広島県立農業技術センター 谷本俊明

2 林 地

赤名、上布野図幅は、広島県の北部に位置している。図幅の森林は、主に、天然林広葉樹と針葉樹人工林で構成されており、全体の87%を占めている。

上布野図幅の北部及び赤名図幅は、特に、天然林広葉樹と針葉樹人工林が混在した地域となっている。

天然林広葉樹帯の主要な樹種は、コナラ、クヌギ、クリ等の落葉広葉樹で、近年、景観保全、野生生物の保護等の観点から、その評価が見直されている。

上布野図幅の南部には、天然林針葉樹林帯が見られる。そのほとんどは、天然アカマツ林であるが、近年松くい虫の被害が発生しており、本図幅においてはその被害が著しく、積極的な樹種転換を実施すると共に、公益的機能の高い森林、景観上保全を必要とする森林、マツタケ林等、守るべき森林については、徹底した防除を図る必要がある。

赤名・上布野図幅の人工林率は、43%と、県平均人工林率30%を大きく上回っている。北部を中心として広がるこの針葉樹人工林帯の構成樹種は、主に、スギ、ヒノキで、間伐対象となる13年生～35年生の林分が65%を占めており、今後適切な施業を図る必要がある。

本地域は、戦後の造林により、大量の森林資源に恵まれた、新興林業地域であり、ひろしま備北材の供給地となっている。今日主伐期を目前にして、国産材供給力の増大が期待される地域である。

表-13 森林面積構成比

(単位：%)

		針 葉 樹		広 葉 樹		そ の 他
		天 然 林	人 工 林	天 然 林	人 工 林	
山 県 郡	千代田町	42	33	23	0	2
	大朝町	19	49	31	0	1
高 田 郡	吉田町	49	26	22	0	3
	高宮町	44	23	31	0	2
	甲田町	53	18	27	0	2
	八千代町	37	30	32	0	1
	美土里町	32	35	32	0	1
双三郡	作木村	4	38	55	0	3

(注) 赤名・上布野図幅を構成する市町村を掲げた。

資料：広島県林政課「江の川上流地域森林変更計画書」(平成3年9月18日)

大阪営林局「江の川上流国有林の地域別の森林計画書」(平成4年4月1日)

広島県林務部林政課 垣内孝正
 〃 安藤美紀

1995年3月 印刷発行

都道府県土地分類基本調査

赤名・上布野

編集発行 広島県県民生活部土地対策課
広島市中区基町10-52
TEL (082) 228-2111

印刷 株式会社 三 共
TEL (082) 228-7163